

# わいふ

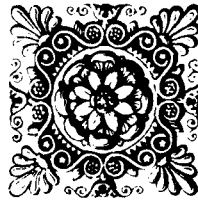
148

特集 ニューファミリーの实体

考える主婦の投稿誌



書きたいひと  
考えたいひと  
知りたいひと  
怒りたいひと  
「わいふ」は  
あなたの雑誌です  
あなたの中にあるものを  
声にしてみませんか？  
あなたは 発見するでしょう  
同じことを  
考えていたひとが  
あそこにも ここにも  
いたことを  
そして  
みんなで考えるとき  
あなたは もう  
一人ぼっちではない  
ということ



### 投稿規定

予約購読者はどなたでも投稿できます。

- (一) 随筆、随想。テーマ自由  
千二百字まで。
- (二) わいふテイーチイン  
特集テーマ原稿  
千二百字まで
- (三) おしゃべり。五百字まで  
以上、原則としてすべて掲載  
しますが、紙面の都合上多少  
選択することがあります。
- (四) 持ちこみ原稿。形式、内容、  
長さ自由。ただし掲載は編  
集部で協議の上決定します。



**特 集** ニューファミリーの实体

■ ニューファミリーの精神分析.....	岸田 秀	17
■ 〈特集投稿〉.....	高野 貴子・鈴木みち子	21
■ 〈座談会〉ニューファミリーとオールドファミリー.....		24
	持田栄一・井上文雄・矢崎一成・矢島一夫	
	* * *	
■ シリーズ「生きています」⑤大庭さち子さん.....		2
■ 投稿随筆 たていと・よこいと.....		4
	北村七重・徳光利子・北本柳子・坂野昭代 中原律子・富沢あき子・石塚美穂・西村直次郎	
■ わいふティーチ・イン.....		9
	長田和子・鞍智美知子・四方愛子・宮本法子	
■ 君が代通信 — その3 —.....	亀山利子	32
■ わいふ家庭科・男女必修.....		36
	ふとんの裏ばなし 話す人 足達喜八郎	
■ 手のかからない鉢植.....		38
■ ウルビノ紀行.....	神谷圭子	39
■ お能拝見 ④.....	和田好子	42
■ エネルギー戦争は始まっている.....	田中昭二	48
■ おしやべり.....		52



## 大庭さち子さん

悪い亭主を持った不運と、よい亭主に恵まれた幸運と、どちらが本当の幸福なのか、誰にも分らないところに人生の不思議がある。不運を逆手に取って、みごとに作家として自立した大庭さんはいま、七十四才。色白の豊頬の若々しさに、人は目を見張るのだ。

夫に赤紙がきたとき、思わず「パンザイ！」と叫んだ妻は、日本広しといえどもそう多くはいなかったろう。

大庭さんがその妻だった。

出征した夫の給料は、残された家族の手に入る。これでやっと、食えるようになるんだ！という希望があった。

ジャパニーズ・ゲリー・クーパーを自任する美貌の夫君は、有能な新聞記者ではあったが、給料を派手に散じて家には殆ど入れなかったのである。

女関係も多かった。

二人の娘を抱えた妻が、少しでも逆えば、前歯が折れるほど打ちのめされた。

二十五円の家賃の家に住んで、渡される金は二十円。食って行ける筈がないのである。留守宅家族に渡される給料は、天の助けと思われた。もう暴力におびえることもない……。

はじめての給料日、社に給料を受け取りに出かけた妻は、呆然となった。

夫はすでに、六ヶ月分の給料を前借して、出征していたのである。

大庭さんの文筆生活は、こうして始ま

った。

食うために、「大衆文芸」の懸賞小説に応募した作品が、一位で当選したのである。生まれてはじめて書いた「妻と戦争」という小説だった。夏のさかりを一ヶ月、ヨレヨレの浴衣姿でチャブ台に向って書きあげたのである。

幸運にも賞は射止めたものの、それから先が大変だった。

川端康成も云っているように、作家として出発するためには、世に出る前ずに行李二杯ぐらいの原稿を書きためていなければならない。

切迫つまって筆を取った大庭さんに、そんな蓄積のある筈がない。雑誌社から、次々に注文がくるのは有難かったものの、四苦八苦の連続だった。

しかしその時期ものりこえて、半年たつてやつと手にした夫の給料にもそれほどの有難味を感じなかったほど、仕事は順調に発展していった。

三十四才の時の話である。

大庭さんのエネルギーと積極性は、その時始まったものではない。

府立第二高女時代、英語の先生がキリ

ストの話を教室でしたというかどでクビになりかけたとき、三年生の大庭さんは、先生を擁護してストライキをうった。京都開闢以来の女学校ストである。

生徒が勝った。処分もなかった。

私物の検査で、島田清次郎の「地上」を持っていたからといって、散々に油をしぼられる時代だったから、「どうして退学にならなかつたのか」と大庭さんは

今でも不思議がる。Sレターが毎日のようにまいこむ全校のアイドルでもあった。同志社大へ入ったとたん、校長排斥運動の実行委員長に祭りあげられ、又しても騒動の中心人物に。

この運動も成功した。「あの頃からアジ演説がうまかつたらしくて……」と大庭さんは笑う。

これほどの活気に満ちた青春を、屈従の生活に追いやつた夫の暴力のすさまじさは、経験者以外には、わかるまい。

別れたら食っていけない、という怖れと、二人の娘を結婚させるまで、という思いが、耐えさせた。

五十をすぎて、念願の独立生活に入つてから、大庭さんは筆一本で暮してきた。

七十四才の今日でも、調べたいこといぶつかれば、足を使つてどこまでも出かけて行く。

しかし夜にならないとエンジンがかからなかつた昔と違い、午前中しか頭が冴えない昨今は、体調を整えるのに規律正しい生活を送っている。

やりたい仕事はまだあるからだ。

二年前書き下した「李朝悲史」は、締切におわれ、資料をこなすのに手一杯で不満な出来だった、というが、日本人の触れたがらない歴史の暗黒面を扱って、何ひとつウソがない、と韓国の人々に感謝された作品である。

過去の苦勞のかげりのない大庭さんの朗らかさは、どこからくるのか。

時間に恵まれている現在より、幼い娘たちにまつわりつかれながら、汚れた皿をチャブ台の下に押しこんで、原稿かきに追われていた時代のほうが、どうも生き甲斐があつたようだ。「人間、抵抗する対象を持つていなくてはいけない。全く自由な、抵抗のない生活というものはマインナスですよ」大庭さんは、サバサバと云つてのけるのである。(田中)

投稿随筆

たていいと  
よいいと



ゆで卵が

お好きな方へ

東京都

北村 七重

外国みやげに頂いたもので、便利なものがありますので、御紹介します。若い男性が、「これは何に使うものかわからないけれど、きれいだから買って来ました」と言って、私の所へ小さな瀬戸物を持って来てくれました。それを買う時、傍に卵の絵の入った説明文が立ててあったのだが、外国語は苦手故、読んでもわからなかったと言います。手に取ってみると、それは蓋つきの容器で、直径4cm、高さ5cm、化粧品のクリームのび

んに似ています。蓋は金属製でつまみがついているネジ蓋です。

ミの方は5mmほどの部厚い陶器で、内側の底はやや窪んでいます。外側には、渋い色合いで花と蝶の絵がついています。これに卵一つを割り入れると、八分目までできます。ゆで卵をつくるものではないかということになりました。卵を入れて蓋をして、鍋に立て、ゆで卵をつくる要領で煮立てます。お湯が蓋より上にこないように気をつけます。頃合いみて、蓋をまわして中のぞき、好みの固さになったところで取り出します。途中でかたまり具合を見られるというのが魅力です。容器のまま食卓に出し、スプーンですくって食べます。半熟卵、それも、とろるといのが好きな私にはうれ

しいもらい物です。でもこれが正しい使い方がどうか、自信はありません。(次頁イラスト参照)

心を奪われまい

一、六、三商法

柏市

徳光 利子

アメリカが不景気のどん底にあつた九三〇年ごろから流行しだしたのがスーパーマーケットである。アメリカと密接な関係のある日本でも、その数は枚挙にいとまがないほどの発展ぶりだ。わが家の近くにも、広い駐車場付きのスーパーが出来た。近代的な大きい建物、明るい照明、美しい飾り付けは、正に消費者の購買欲をそそるのに充分なように見える。

私も開店のチラシに誘われて、何度か行ってみた。途中の小さなマーケットや小売商店の閑散とした様子に、商法の今昔を思い知らされた。しかし、ラッシュ時のスーパードでは、レジまでの行列が何と四、五十分もかか

った。これは開店時のスーパードでは、どこも同じである。つれづれなるままに、買いたくない商品の価格を、あれこれ調べてみた。確かに広告に出ている目玉商品は、原価に近いほどの廉売だった。これが、題名の一の商法に当る。そして、小豆や小麦粉のような食品に至っては、小売店より一品につき、三、四十円ほどの高い価格で売られていた。これが、三の商法に当る。さて、残りの六は普通の店と同価格ぐらいなのに気がついた。すなわち、開店売り出しが、買ひ方によっては、あまり得でないことが分った。

さて、幸か不幸か、その日の夕刊に、デカデカとスーパードの一、六、三商法が解明されていた。何でもかでも、スーパードへスーパードへのイメージは、一変させられた。よく考えて見れば、あれだけの設備をし、多額の人件費を支払うことからすれば、目玉商品以外の廉売は無理というものであろう。廉売どころか小売店より、むしろ高く売られ

ているものもあるのに驚いた。おまけに、何でもかでもバック詰めで、鮮度を目で確かめることは、不可能に近い。私の経験だと生鮮食品は、やっぱり小売商店の方がいいように思う。

私たち消費者は、近ごろクローズアップされてきた、スーパーの一、六、三商法を頭に入れて、もっと勉強し、より上手な家庭経済の切り盛りを、迫られて来ているのではなからうか。

## うしろ姿

枚方市

北本 柳子

やつと歌らしくなった。今日で何日目だろうか!!

お世辞にも上手とはいえない主人の歌。その雑物の歌の題名は「津軽海峡冬景色」という歌である。

「うえの・うえの……」と歌い出しの調子を調べているらしいが、まるで念仏を唱えているみたい。とにかく音の高低がな

いのだから。

それでも主人は歌がすきで次々と娘に特訓を受けては、自称自慢ののどを披露し悦に入っているらしい。が今度のこの歌はだいぶてこずっている。何しろ終りまでいくと初めの方が歌えなくなる。みかねて息子も音の高さを手ぶりよろしく助だちする。

テレビの上の一輪ざしを指さして「いくら枯れるのが早いといつても、何回入れ替ったと思う」と高校生の娘は笑う。

朝は寝床から便所から、か的美声が私の耳をくすぐる。と、たちまち私を先生にする。

ある朝私はいった。

「もうこの歌あきらめたら、」

「いやいやいつも始めはこんなんや」

そして堂々と歌う。

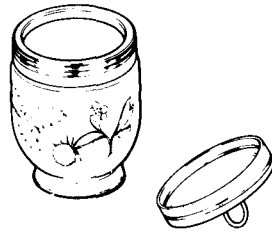
「おいその次どうやった」

「さあどうやったかなあ……忘れた」

いい加減にうるさくてうるさくて。

それから期末試験の始まる前

のとある日曜日、娘とお風呂に入った。湯舟につかりながらため息まじりに、「あの歌ものにしたんやからなあ……私も英語がんばってみよう」とひとりつぶやいているその横顔をみて、



私は、はっと気づいた。後姿を見て学ぶとはこのことだと。薬師寺貫王高田好胤先生の言葉を。

無意識な主人の行動、その後姿に娘は感じるものがあつたようです。とりたてて、何かあつたというわけではない。何気な

い日常の流れの中で、何気なくふと感じとったまでのこと  
私は今、自分の後姿を想像しています。

## サザエさんが

羨しい

大宮市

坂野 昭代

「遊びにおいで下さい」「どうぞ、お上り下さいませ」よく聞く言葉かも知れないけど最近身近で聞いた方、まして自ら口にした方は少ないのではないかしら。

向う三軒両隣のなお付合いが少なくなつてゆくのを悲しく思う者の一人です。都会と呼ばれる所に住む様になつて久しい。子供の頃九州に育ち、父の仕事もあつたでしょうが、我家はよく人がみえたものです。たつた一間しかない時でも、人々が入入して、役所の人、近所の人々毎日の様に見えるのは、同じ話をくり返ししてゆくのでした。

「人が来てくれるのは有難い事

だ」という両親の言葉にも反抗を感じたものです。九州のある地方では、お茶に、タクワンを切って出し、ボリボリ食べながら午前中しゃべりこんでたっけ。都会化と言う波に乗ってこの辺りも田畑が消え、マッチ箱から石けん箱ぐらいの家が続々と建ってゆきます。

よく立話を長々としている場面に出合うけど、女の話しは他人の悪口が多い様で、男からみると次元が低いと言う事になるらしい。朝から夕方まで、実によく立話をする割に近所付き合いには無いのです。入院しても見舞うでもなく、家族を救急車でかつぎ込んだ後、学校から帰る子供の世話を頼む人も無かったり、母親が家出をし子供をみる人が無くて困ったり等々；昔なら近所が相談にのり、めんどろをみたりしたものを。どちらが良いかは、人それぞれ好みもあり分らないけれど、私の様な、オールドファッション的な者には淋しくてならないのです。

或る日、ふと知り合った方から思いもかけぬ「遊びにいらして」と親切な話しがあり、電話まで書いて頂き、唯々感激、砂漠でオアシスを見付けた如く出掛けました。しかし話しの半分からは、ある宗教の誘いと分り、オアシスは、とたんに壁気楼となり消えてゆきました。自分の愚かさを悲しんだり、反省したり。

いつだったか、アパートの隣室の住人が幾月もたつてから死亡しているのが発見された話を讀んだ事があります。東京人の無関心さと冷たさが報じられていたけれど、隣は何をする人ぞ、も決して悪い事ばかりでもありませんまい。近所挨拶一つもしない代わりに、人の事も、とやかく言わないのもうるさくなくて良いかも知れない。しかるに、この辺りは、都会的、近所づき合の無さと、田舎的、他人の事を、とやかく言う、うるさいのとが共存しているからたまらない。

テレビに見るマンガ「サザエ

サン」が、しみじみ、うらやましい!!

## 離乳食に思う

東京都

中原 律子

我が家では、現在五ヶ月の赤ちゃんがいます。毎日毎日育児生活なのですが、離乳食を与えていて、その排泄物を見るにつけて考えてしまうのです。

赤ちゃんを育てるつどその思いは私を通るのですが、残念な事に子供達が大きくなるにつれて薄れていってしまうのです。きっと「わいふ」をお読みのみなさま方も、お子さまが赤ちゃんのうちにはこれは大変とお考えになつたでしょうが、子供が五才六才となり大人に近づいていくと、忘れてしまうのでしょうか。それは、おきつしの良い方はもうお分りでしょうが、食べ物自体を作ると言う事なのです。「何だバカ、あたり前じゃないか」と言わないで下さい。

あの食べるとすぐ出る排泄物には、全く今までの怠慢を見る思いです。今まで、おやつには何も変な物の入っていない物をやろうとは思っていませんし、注意しているつもりでしたが、長い間には子供の要求に負け、赤・緑・黄色と色とりどり、香料添加物の数々入った食品をとらせてしまったようです。さて又これから気を入れて食べ物を見直していかなくては、と感じたこの頃です。

## 胃の検診

東京都

富沢あき子

夜半にお腹が痛くて眼が覚めた。近所の医者に投薬して貰って、二三日すると治る。或いは薬屋に走って薬を呑んで一件落着。こんなことを繰返しながらかも、大病院に行くとなぐ検査検査といわれそうで、それがいやさに足を遠のかせている。こんな経験をお持ちの方は私ばかり



ではないと思うのだが…。

とにかく普段は気が強いのに、こと病気になるると小心で臆病なのだ。口の悪い友達に、「あなたは苦痛を伴わなくて、結果がほぼ大丈夫とわかつている検診しかりしいのね」といわれるのだが、どうもあの胃のレントゲンというやつは苦手な気がしてご遠慮申上げている。でも今度ばかりは、とうとう逃れられないことになってしまった。

「自覚症状があるからということではなくて、五十に手が届くことから、一度位は検査をしなくちゃ」と、白髪を混えた温厚な医師にすすめられ、「レントゲン検診の予約をしていって下さい」とやんわり命令されてしまったのだ。

仕方がない。まあ早かれ遅かれしなければならぬのだからと自分に言いよかせ、家族の者には〇月×日はお母さんの胃の検査があるので朝食はとらないわよ、などと大げさにふれ歩き、体験者にはバリウムなるものの感触を聞いて回ることにした。

「あんなの全くヘッチャラヨ」

「のどが乾いていた時だったからおいしかった」という人から「息を殺して一気に呑めば大丈夫」とか、「まるで白ペンキを呑むようで、とても呑み切れるものじゃない」等々、これが又



千差万別なのである。何のことはない。これではどれを基準にして心構えを作ったらいいかわからないではないか。

当日定刻九時、待合室で座っている、「富沢さん」「ハイ」

「食事はとつてきませんね」

「ええ」顔はニコやかに。態度も落着き払っている。いくらレントゲン技師でも、内心ドキドキしているのまでは見すかされまい。レントゲン台に載つて、助手の人からコップが渡される。牛乳のようなものがジョッキに

いっぱい。息をつめて呑む。フツと息を抜いたらフルーツのエッセンスの香りが鼻をついた。

「アツこれなら大丈夫」と、ゴクンゴクンと呑み干した。量が多いのは大変だが、思ったよりはるかに呑みよかった。

さて結果は？ さるロッキード高官の如き灰色であった。十二指腸潰瘍が発見されたのだが、現在自覚症状もないのでしばらく経過を見ることになり、投薬だけ受けることになった。たかだかバリウムを呑む胃の検査ぐらいで、こんなおっかなびつくりの自分もだらしなく思うけど、今は、次の検査で胃カメラを飲めなんていわれないかと、またビクビクしている。

娘や息子が成長して、そちら

の心配が薄らいだら、今度は我身のことになり出した。やれやれ「健康なからだ」って一口にいふけれど、それを保つということは、やっぱり大変なことなんですね。

人の心は……

川口市

石塚 美穂

一年程前、近所に、私とあまり年の違わない方が越してこられたのです。子供達も同じ年のせいもありすぐに親しくなり、近所づき合いというよりも友人としてのおつき合いになりました。

いつも身ぎれいにし、笑顔の絶えないやさしい方でした。いろんな話題のあとに、ふつとその方が洩らされた事がありました。「私、宗教団体に入っているのよ。入るまではつまらないものだと思っていたんだけど入信してみると、とつても素晴らしいものだったわ」と。私もその宗

教団体の名前は知っていました  
が、内容は知りませんでした。  
とにかく素敵な方でしたから、  
それを聞いても何とも思わず、  
これまで通りにつき合っていた  
のです。そんなある日、その方  
が、宗教団体の新聞を配達し始  
めたと聞かされ、毎朝大変だな  
あと感心したものです。そして  
よかつたら、一ヶ月だけとって  
みないかと勧められたのです。入  
信しなくてもいいからという事  
でしたので、その宗教団体を知  
るつもりで取り始めました。新  
聞を開いてもわからない事が多  
く、少々もて余していたので、  
その間二、三度入信を勧められ  
たのですが、その時の私には必  
要でないと感じていましたので、  
そのつど断り続けていたのです。  
その方の温和な性格と穏やかな  
くらしぶりを見ていましたので、  
素直に断る事が出来たのです。  
断ったからといって態度が変わ  
る事もなくやはり楽しい日々を  
過ごしていたのです。が、私の  
不注意で左手を骨折し、三週間  
の入院生活をし、退院したので

すが、退院間際にも見舞に来て  
頂き「退院しても、買物など大  
変でしょうから手伝って上げる  
わね」とやさしく言って下さっ  
たのです。でもいつこうに顔を  
出しても下さらないので、その  
方も忙しいんだろうと思ってい  
たのですが、そうではないらし  
い事を聞き驚いてしまいました。  
というのは、退院して四五日目  
に例の新聞を断わったのですが、  
それが原因らしいとの事でした。  
起る筈のない事態に驚くと共  
に悲しみを感じたのです。あの方  
が：私への笑顔は絶え、それど  
ころか私を無視なさるのです。温  
和な性格、心の広い方、と感じて  
いたのですが、この頃では、私との  
おつき合いは宗教団体への入信  
をさせる為のものだったのでは  
と思いはじめました。  
最近では、その子供さんまで無  
口になり、私にも息子にも、話しか  
けてこないのです。  
「本当に人は怖い」 私の偽わ  
らざる気持ちです。  
人を信じられないこと程虚し  
いことはない知りつつ……。

『? !』

東京都

西村直次郎

(序の序)

怒りは まだ つづいて いる

余いんのように 友だちと 話しあつた

激論 2時間余の 怒りが……

皇居は 誰れが 住んでいるの?

あんなに 広く みどりに つつまれて?

私たちに 幸せを もたらして

くれる「人」が……いるの!

不況つて 知っている 人が いるの!!

日の丸は どうして 美しいの?……

君が代は どうして 美しいの?……

そのために 多くの人が

死んで いったのに!!……



## 養っているのは どっち？

相模原市 長田和子

(27才)

最近「主婦の価値」とやらがやたらと取りあげられているようですが、これはそんなに騒がなくてはいけない問題なのでしょうか。

元来主婦とは家庭の中における地位で、その家庭の中にあつてこそ存在価値のあるもので（もちろん主婦をやっている人間の価値とは無関係）社会、特に資本主義社会においては、GNPに加算されていないだけに、価値を創造していない労働力といわれても一言の返す言葉もなく、その反論はややもすると感情の方が表に出て説得力を欠くものとなりがちです。でも、主婦は反論します。だって毎日家事（及び育児）で朝から晩までくたくたになるまで働き（ちよつとオーバーかな？）それに対する報酬が「その労働は無価値である」なんて言葉じゃ頭にくるのはあたりまえですものね。

でもちよつと待つて下さい。

今年我家の庭にトマト、キュウリ等の野菜を植えました。毎水をやり、雑草を取り、やたらと手をかけたせいでしょうか、七月にはりつぱな実がなりました。日当りがよかつたせいでは

よう。色といい、味といいそこの店先に並んでいるものとは全然違うと自画自賛して、今も賞味しております。しかしこれらの野菜は流通経路を経っていないので、もちろんGNPには影も形も表われません。でも私の農婦としての労働が無意味だなんてちつとも思いませんし、我が家の野菜がパック詰めにされた野菜より劣っているなんて考えられません。

私は人間の価値の一つに「達成意欲」というのをもつてきています。結果はどうであれ、目的をしっかりとって、それに向つて努力するということは人間だからできることだと思つています。家族のためにおいしい食事を作り、清潔な生活環境を用意してあげるといふ生活に何のうしろめたさがあるのでしょうか。誰に遠慮することがあるのでしょうか。苛酷な資本主義社会において、たとえ無価値のレッテルを貼られたとしても、それを無意味な労働だときめつけることは誰にもできないと思ひます。経済の講義で「日本の経済を支える労働力を家庭という場で再生産し、朝再び送り出す重要な仕事をしているのが主婦である」とかいつている先生がいらつしやいましたが、このような位置づけをしてもらうまでもなく、肩書にこだわるようなエコノミックアニマル的発想はすてて、もつと自分の選んだ人生に自信と責任をもつべきだと思ひます。それが家庭における主婦の存在価値を高め、社会人としての責任をはたすことにもなるのではないのでしょうか。外からなされた価値づけなんて生きていく上で何の糧にもならないと思ひます。

「おまえを養っているんだぞ」なんていう御亭主がいたら、「今晚の夕食はおあずけです」つていつておやりなさい。



## 何故めくじらを 立てるのか

市川市 鞍智美知子

「わいふ」を読み初めて、もう一年経つのですけれど、書くことが好きな私にしては、どうも投稿する気になれない、いつも違和感を持ってしまふ雑誌でした。「わいふ」という表題が示す通り、これは優しいおんなのひとの集まりでしょうに、何故、目くじらをたてることの好きな中性みたいな方ばかりが書いていらつしやるのでしょうか。二言目には意識が低い、差別の、と、まるで闘わざるもの生きるべからず、の様な、気の小さい私には、もうたくさん!!としか云えないような——。だから、一年で購読中止にしようかなと思いましたが。自分で勝手にイメージを描いて、現実がそれと違うから、といつて腹を立てるなんて大人気のない話ですし、私の好みでなければヨソへ行けばいいのですから。

でも、もう少し読み続けてみようと思いました。お茶でも、お花でも初心者ほど理くつを云いたがるとききます。化粧品会社美容部員も新米の人ほどお化粧がドギツク、ベテラン程目立たないお化粧に成つていくと聞きます。子供も十才位になると盛んに理くつを云つて自分の力を誇示しようとしませぬものね。そんなこと疾にお母さんには解っているのに賢し気に目を輝や

かせて云うのを聞くのは相手が子供だから可愛いので、だから許せるのですけれど、成人式も過ぎ、子どもも持つて、もう未熟ではない筈の人間がさもないことに肩肘はつて立ち向うのは、やっぱり「おんな」だからなのかしら。たしか匹夫の勇つて、「おとこ」のものだけれど、とひかれ者の小うたみたいなきことを云つたりして。

今、仙台の岩田真砂子様の「被害妄想を捨てよう」を拝読いたしました購読中止にしないでよかつた、と吻つといたしました。自分の意見と同じならば機嫌がいいのか、と云われそうですけれど、私も主婦専業であることが女の社会進出を妨害している式の論理にはかねがね非常に疑問を感じており、又、主婦が長電話をするのは自分で稼いだお金ではないからだ、などと云われると、その貧しさに怒りよりもむしろ憐れみを感じてしまつていたのでした。そして、その様な方々と一緒に一くちに「主婦」と呼ばれてしまうことがたまらなく悲しかったのです。その感覚で子どもを育てながら、エゴノミックアニマルはやめましょう、など云つてみても何か可笑しいではありませんか。

でも、もういいのです。お金を一銭でも多く得ることが働くこと、即ち社会への進出、女性の解放ETC——と信じる人がいる一方、そうじゃない、外へ出ていく母親の陰でどれだけ子どもがいろいろなる形で犠牲になつていくか、といい続ける人がいて。だから、これからの女性はかくあるべきだ。なんぞと云つて欲しくないのです。誰でも、自分で考へて歩いていくのですから。原始、女性は太陽であった——その太陽はすべての人々にあまねく光を与えているのですから。

新米の主婦が考えること。それは、不安。ただ、理由も漠然としているのに、離婚を考えたりする。

不安と不満から、小さな人間になつて行く自分を自覚している。私みたいな人間はどこで何をしたら満足するのだろうか。

結婚という大きな第一歩を踏み出し、愛し愛され自分は何と幸福者かと思つたものだ。ミスとミセスの違いを、かみしめていた時もあった。

ところが、夫はいまさらの事ではないが月二回しか帰らぬ身。合わせても一カ月に一週間しか家に居ない。家から会社へ行く日、帰りは同僚のつき合いで午前様。

## 私の言いたかつたこと

柏市

### 四方愛子

(28才)

私は理解ある妻に成る自信があつた。絶対に夫に不満など言う妻にはならないと思つていた。ところが、孤独とその淋しさとむなしさと、複雑な感情が夫が帰つて来るまで続くのだ。夫が

## 私だけの現実だろうか

茨城県 宮本法子

いない家族の中で、主婦として生活することは何と哀れなものか。

温かい家庭、何の争いもない。しかし家事をやればやるほどに、「何とかしなくてはならない。こんなことではないのか」という焦燥と不安が高ま

つてくる。主婦を逃げ出して、OLにもどりたい。

ビルの谷間、デパートの立ち並ぶ繁華街に住んでいた私。どこを見ても、竹林、田、はすの田畑。長閑すぎるほど静かな村、夫は結婚前一度もこの村の様子を話さなかつた。そして自分はやかな都心へ出勤する。私は文明から取り残されていくのを感じる。

彼の胸からのがれても、私は自由に生活したくなり始めている。

女ひとりで生きていく自信もない。誰もいない私だけの世界に入つて行くことも不安。私は毎日、毎日、こんなことを考えながら、年老いてしまふのだろうか。

「主婦の長電話」に対する反論を興味深く読んだ。「養われているという劣等感」というふうを受け取られたのは、私の書き方のまずかつた為だと思ふ。

私が「長電話」の文で言いたかつたのは、決して「家にはかりいるのはくだらない」とか「養われているのはしゃくだから、自分でもかせいで見返してやれ」とかいう事ではない。電話のことなど最初に持ってきたので誤解を招いたのだと思うが、

言いたかったことは、「主婦としての生き方・個人としての生き方」ということなのだ。男性の場合、結婚しても彼の人生形態(？)にほとんど変化がないのに対し、女性は結婚するとなぜか、「主婦」というモノになる。そして夫の給料を生活費として管理し、家事育児をし、夫が外で安心して働けるよう「銃後の守り」にあたる。

それはそれで貴重な人生経験であるし、そのために多くの時間をかけるのを別に無駄とは思わないが、そのような平穩無事な良妻賢母的生活の流れの中で、個人としての自分の好奇心や意欲を、押さえるのならまだよいのだが、自分が持っていることに気がつかぬまま忘れてしまうとしたら、ずいぶんバカバカしいことだ。さらに自分が好奇心とか意欲を持つことに気づかないと、他の女性の持つそれを理解できず、結局「女の足を女がひっぱる」ことになるだろうと思う。

樋口さんのお母様のおっしゃる「働きたい人が働けばよい。家にいたければよい」というのには私は原則として賛成である。原則として、というのは、自分が働きたいか家にいたいかを考える時、「私は主婦だ」というワクを無意識のうちにはめるのでなく、純粹な個人的意欲と、自分の夫や子供との個人的関係とだけを考えて決めるならば、という意味である。

必要なのは、いろいろな個人的やり方の情報交換を通じて、一番自分に合ったやり方を作っていく事であり、どれが正しいか決めることではない。「こづかいかせぎ」によってささやかなる「個人的生活」の資金にしようというのもやり方の一つで中途半端なだけにわりと多くの人にやりやすいと思っ

のだが、知らないうちに女性差別を助長するとすればユユしいことなので、その辺をもう少し詳しく聞きたいものである。

今回の継続ティーチンへの投稿は、前号に引き続き、主婦の働きの価値を強調する主張が多かったようです。この主張を否定できる人は誰一人いない筈ですが、しかし主婦の働きが社会的に評価されない現実も、一方には厳然として存在しているのはなぜでしょうか。問題の一層の掘下げのために、今後の投稿を期待しています。(編集部)

## 母性迷信への反論

東京都 早乙女光子

座談会という性質上、発言が少し乱暴になるのはやむを得ない事かも知れません。でもやはり、出席者の全体を通じて流れている、少なく生んで母性を高見から眺めた様な優越的？発言に、三人も四人も産んだ母親の側から少しばかりイチャモンをつけてみたくなりましたので。

先ず二人生んだ後に何年かして三人目を生む、いつ迄も現役の母親でいたいという気持？中にはそういう人もいていいと思います。但し女≡母性と片づけられたくないがこんな人達への思いやりも欲しいものです。

例えば、家族計画の失敗から致しかたなかったとか……失敗する事自体、無知性とそしられるかも知れませんが、併し世の中、避妊法に対してヒジヨに非協力的な男が多い事は中絶手術なるものが独身者よりも人妻に圧倒的に多いデータでもお判り頂けると思いますが。三人目を離れて生んだという母親は、一たび宿った生命を抹殺するにしのびない、むしろ良心的な、人間としてのやさしさをさえ感じるのです。或いはまた、信仰上の理由からとか、さらにまたもつと悲惨な場合すら想定する事もできます。

三人も四人も生む人は毒喰わば皿まで

居直り、どうせ大した事は出来ないのだから一人よりは三人の方が価値が多くなるのじゃないか、っていう……

これは少しひどい。大勢の子供を立派に育て、社会に送り出す——その事に喜びを見出す母親がいたっていいんじゃないでしょうか。

そして子供の数の多少にも、どうやら一つの時代背景がある様に思われるのです。

戦時中の多産政策への反動からか、少なく生んで質のよい子に、という意味で一人っ子が増えて来た頃、学識者等によって一人っ子はそれだけで問題児であるという説が流れ、二人っ子になりました。けれどもそれもまた、育つてきますと、甚六と末っ子ばかりの甘ったれ集団だと批判を受け、そうなると三人以上生むのが性格形成上必要ではないかと考える様になったと思うのです。我が家の例で云えば、子供達の同級生にはかなりの三人兄弟が見受けられます。そしてさらにもつと低い年令層を見

ますと地球資源有限説やら、食糧危機やらが騒がれた時期だったからか、子供を持たない主義とか、せめて一人だけにとどめようという考えの人に出会います。

私の場合、たまたま二人兄弟の優劣によって、劣等感に歪められた兄が、弟を惨殺という事件が相次いだ頃、その被害者の一人が同級生だったことから、もう一人生む決心をしたのですが、三人以上の子を持つ母親達と語り合う時、自分の都合に依るのではなく、子供にとつてどちらがよいか、を考えての事だったし、三人も四人も子供を持ち乍ら、子供と適当な距離を置いて自分の仕事を貫いている人達も居るのです。

私の所属する或る母親グループで子供からの自立というテーマで語り合った時、結論は子供の数の多少ではない、自分の専門のテーマを持つかどうかだ、という意見に終始しました。

ともあれ、子育ては母親だけするものではないけれど、なおざりにしていいというものでも無いのです。

社会に於いて如何に重要なポストでもスベアは必ず用意されているけれど、親にはスベアはないと思うのです。どちらの親が育てるにせよ、集団保育で育てるにせよ、未来を担う大切な継承者と思えば、「子育て」は社会のどの仕事に較べても、決して軽んじてはならないでしょう。

母親として無責任な人間は事務員になつても店員になつても無責任だと思ふ。Cさんの言葉に私も同感です。

わいふ147号座談会21頁「東京の相模原」は「東京近郊」の誤りでした。訂正してお詫び致します。

## 自分を知ること

岸和田市 小出久子



「女のからだを知ろう」この題からしてわが意を得たりという思いであった。

我々は「女の中から」というよりも自分のからだを知らなすぎないのであるまいか。いや、知ろうとしないと言う方が適切かもしれない。少なくとも知ろうと試みる意欲がないのかもしれない。何故だろうか。

女は男とは違い、自分の性器を何の器具も使わずに肉眼で観て確かめることは不可能な構造に造られてしまった。内蔵された器官は男のそのように、おのが手で触り、おのが眼でしかとその「ありよう」を眺めることはできない。ならば、文明の利器を駆使して女の「ありよう」をわが眼でしっかりと確かめることに「何か」を感じてしまうのは何故なのか。

たとえ眼を使わなくても五感の一つである触角からは多少なりとも知ることが可能である。しかし問題なのは、社会道徳、社会倫理というすまし顔の「クセモノ」だ。このクセモノは常に性器（特に女は男以上に）を知ることがタブーとしてきた。

女の中からかくあるべし。女の男に対する反応はかくあるべし。果ては女とはかくあるべし。と男は男の描く幻想を打ち

立ててきた。そして男の描く幻想の女こそ女としての一級品として値ぶみして行く社会が、世界の歴史の中でくり上げられてきた。そうして女は本来あるべき人間としての基盤の上に立った女ではなく、男が好む、男に都合のよい女として、かつ、それが本来の女として女自身も信じ思い込まされてきたのだ。

「おんな」はおもしろいと男は言う。この「おもしろさ」とは一体何だろうか。「おもしろさ」とは安定したものの上に映し出されて見るものだろうか。いや、不安定だからこそ「おもしろさ」を発見する。不安定、未完成、そして想像を自在に駆使し、千変万化させることができるからこそ、いやその可能性を含むからこそその中に「おもしろさ」を見つかるものである。その中の女は現在にあっても、女とは常に女自身を持つているものではなく、男の「つくりもの」でしかない。その男の「つくりもの」の中に女は人間としてはじめて男に認められるという過程を経てきた。人間としての女よりも、女としてあるものだけが人間として認められてきたのだ。

しかし、今世界中で生きている女の中に、「おかしい」と思っている、今までの人間≪男、人間≪女の公式の不合理に気付き「よし、いっちょ流れを変えてやるか」と、本来の自然の摂理に従った公式に戻すべきである、という声が大きくなりつつあるのがウーマン・リブ運動ではないだろうか。

女のからだを知る、ということとは自分自身のからだを知ることであり、人間であるおのれを知ることに通じていることだと思ふ。





## 男性の意識の遅れ

千葉市 長田綾子

「失敗しない生き方」(F・モレシヤン著)の文中に、「文明の発達に比べ、人間の精神の発達は常に何世代か遅れているものである」という主旨の内容が載っていた。そのひずみが、男女の問題等の起因になっているのだろう。

何故文明の発達に比べ、人間の精神の発達が遅れるのか考えてみた。その原因の一つは、人間とは観念だけでは駄目で、体験によって成長するからだろう。この考え方でいくと、少くとも一世代は皆が時代遅れになるとも考えられる。

文明の発達を予測し、正しくそれについていくには余程の能力があるだろう。いくら努力しても観念論だけでは、どこか見当違いの部分が出る可能性がある。失敗を体験して、初めて現実を厳しく痛感し、自分の誤ちや思い込みやとらわれに気づき反省するのだろう。

本当に人間が賢く、文明の発達を察知する能力があれば、ま

ず戦争の悲劇は起きなかつただろう。

吉武輝子さんの発言中にも、

「近代になり産業構造は進歩したが、人の精神構造は男尊女

卑であり、敗戦後に憲法が変わっても、精神的意識はかわらない。今でも家父長制度が身分社会を引きずっている」という主旨のものがあつた。これも、産業構造や憲法改正等の文明の発達の遅れを指摘している。

何故男女間の問題が、男と女の立場でその主張がくい違ふの  
だろうか? 勿論それは弱者の痛みは弱者にしかわからないの  
も事実だが、その問題により真剣に取り組むのは、蔑視されて  
いる女性だからだろう。だから、それに対する真剣さも考える  
回数も、男性側のそれを上回るわけだ。凄く過激な女性問題グ  
ループは別として、この問題に関してはまともなテレビ討論等  
では、女性側の主張の方が論理的で、男性側の主張は非論理的  
な浅薄さを感じる。つまり女性側は必死であり、受ける方の男  
性側は、彼等にとつて不都合な論理に対する保身本能的な迂回  
反応が感じられる。それは男女の利害の差から生まれるものだ  
ろう。

つまり文明は機械的に発達することができ、人の意識は、  
クールなスイッチの切り変えがむずかしいのだろう。人間の幸  
福願望の保身本能から、既得権のある男側は、その利害から意  
識を簡単にわり切れないのだろう。

女性側の主張を認めることは、今迄男性に与えられていた既  
得権を捨てることになるわけだから、それは勇氣と本物の男ら  
しきがいると思う。

文明の発達にくらべた男性側の意識改革の遅れの認識を求め  
る努力は、前途多難だが、諦めずごまかさず、前向きの姿勢で  
ねばり続けることがこれからの全女性の使命ではないだろうか?



## 特集

# ニューファミリーの実体

ニューファミリー。

それは、思想のない風俗だろうか。

実体のない虚像、商業主義の

でっちあげた、明日にも消える

流行のあぶくだろうか。

否。何かが、確実に変わりつつある。

マスコミの手垢にまみれた

“ニューファミリー”を、あえて

取りあげる所似である。

# ニューファミアリーの精神分析

岸田 秀

最近よく云われているニューファミアリーに実体があるのかないのか、はつきり云つておくにもよく分らないんです。

ニューファミアリー、ニューファミアリーとまわりで云うので、若い人たちが我こそはニューファミアリーというつもりになつてゐるということはあると思う。たしかにニューファミアリーに対する世間一般のイメージに当てはまる夫婦というものはあるわけで、それを若者向けの雑誌が取り上げる、そしてその取り上げられたスタイルの生活が又拡がつていくといつたところではないでしょうか。

しかしすべてが風俗的な、表面的な変化ばかりかという、必ずしもそうとは云い切れないと思うんです。

ニューファミアリーの男女の結びつきはなかで、一番実質的な変化というのは、

男女の性的関係が対等になつたことではないか。

女性が性的に非常に自由になつてきた。ぼくのまわりにいる学生諸君をみても、このことは否定できないし、結婚しても離婚することが以前ほどタブー視されてゐない。いやならさつきと別れるという女性がふえてゐる。これは実に大きな変化だと云つていいでしょう。

## 幻想に支えられた男の性欲

大体人間の赤ん坊というのは、養育に異常なほど長期間かかります。このこと自体すでに不自然なことなんです、このため母親は育児期間中自分の力で生きていくことができなくなる。従つて種族

保存をはかるために、父親が母と子を一定期間養わなければならぬ。

性欲、あるいは母性愛も本能のように云われていますが、動物と違い、人間の場合は性欲も母性愛もまるつきり本能ではありません。そこで本能が変わるものとして、母親にはつらい子育てを、父親には母と子を扶養する過重な労働を背負わせるための、他の推進力をつくり出さなければならぬ。

そのために人類はさまざまな幻想をみ出してきました。

その最たるものが、女性の肉体の商品化の幻想です。

元来性行為というものは、両性に対する行為、双方が楽しむべき行為であるはずなのに、扶養の義務を背負ひこんだ男にとっては、苦しい労働によつて得た代価



を支払って獲得する快楽となり、女にとっては、男に養ってもらうために男に提供するサービスになったのです。一方の快楽に一方が奉仕するわけで、だから性行為においては男女の平等はない。積極的に性の快楽を追求する女が、「淫乱」などと非難されるのも、こうした社会通念のあらわれです。

女の肉体の商品化は、われわれの文化を支える最も基本的な幻想の一つですが、この幻想がまた、さまざまの他の幻想を作り出してきました。

江戸時代、「床すべり」などと云って將軍の側女は三十才をすぎると、性の相手にされなくなつたと云いますが、女における適齢期というものが非常に限定されていのもその一つです。果物や野菜は新鮮なほどいいというわけです。

処女性も、女の肉体の商品価値を支える幻想の一つです。古物が新品より安いのは商品だけですからね。結婚まで処女を守るのは、商品価値を傷つけずにできるだけ商品が高く売りつける目的以外の何ものでもありません。「男を知らない清純な処女」というのは、まさに商品を売

りこむ絶好のコマーシャルです。

人類の最初の集団である家族、婚姻制度、さらに売春などはすべて女の肉体を商品化する幻想によって支えられ、成立してきたわけです。

日本でもヨーロッパでも、昔は、上品な女性は性欲を持たないとされてきました。近頃はさすがにそれほど馬鹿げたことを云う人は少なくなりましたが、それでも、女の性欲は本来受動的であつて、男に手ほどきされてはじめて開花するという神話はいまだに横行しています。

この神話も、女の肉体の商品化の一環です。女の肉体は商品なのだから、あくまでも男の快楽の道具であり、その道具が、自発的にこちらへやってきて使ってくれなどというのでは、商品化の前提が崩れてしまう。

できるだけ商品価値の高い女を、自分の権力、財力にものを云わせて手に入れる。そういう征服の形式こそ、古代から現代まで、男が性的に興奮し、快楽を得る一般的なパターンだったのです。

露骨に売春という形を取るにせよ取らないにせよ、女の肉体の商品化は広く人類の文化にいきわたっており、女性差別、

女性蔑視の起源になっていきます。どれほど高価であろうと、女は人間としてではなく、商品として評価されていたに過ぎません。

## ニューファミリーの自閉的な世界

ところがニューファミリーにおいては、今までの性文化を支えてきた社会共通の幻想が崩れかけてきているのではないのでしょうか。

いまの若い者を見ていると、女性にとつて結婚が昔のような意味での力を持たなくなっている。

ともかく、性的関係を持つても、女のほうが平気で男を振るでしょう？ そんなふうを意識が変ってきた以上、若い男女の生活が、オールドファミリーと感覚的に違ってくるのは当然です。

もちろんこの変化は、女性の経済的自立と無関係ではありません。夫が外で働き、妻が家事をして子どもを育てるといふ生活様式が崩れかかっているということがひとつの大きな原因ですね。

経済関係が対等にならないと、男女は根本的に対等にならないということとはた

しかにある。二人が対等に働き、対等に家事と子育てに関わって生活して行くというのは、最も進んだ形、望ましい形のニューファミリーの型でしょう。

しかし大多数のいわゆるニューファミリーはおそらくこの型に入っていない。

男がおむつをかえたり、デパートについて行ったり、乳母車を押したりするとはあり得ても、彼らもつと基本的なところ、つまり男女の分業が成立している社会的背景をそのままにして、自分たち二人の世界に閉じこもっていると云うのでは、ごっこの世界です。

だからこういうタイプのニューファミリーは、子どもに対する態度も、なんかベットに対するような感じですね。

一人の人間に対する視としての責任感があるかどうか。子どもは自分の延長にすぎないという感じがします。

ということ、社会や国家、ともかく自分をとりまく集団から自分たちを切り離して、自閉的な世界の中に閉じこもって、そこでムードとしての平等ごっこを演じている。オールドファミリーがなぜああいう形をとらざるを得ないかというその社会的背景をつきつめて、体制を改

革し、乗りこえて行くという方向でなく、とにかくそういうものは見ない。見ようとしなない。自分の延長である配偶者、子ども、気分の合う友だちの交際にだけ閉じこもって、一種の自閉的社会を作っている。

ところで心理学的に云うと、自閉症というのはいががないなです。自己を確立するというのは、自己と他者を区別するということ。他者の認識が必要なわけですから、自閉症の人間は、自己以外の世界に関心をもちたくない。現実の世界に存在しているものは、それがいやなことであろうとも、自己以外の世界として認識しなければいけないのに、それができないで、そこから逃げて自分の中に閉じこもってしまう。これが現在のニューファミリーの姿ではないでしょうか。

そこには真の意味での自己はなれません。男性中心の社会機構もかわっていない、男の性欲を支えている幻想もそのまま、そういう所と切り離されて自己満足しているニューファミリーは、早晚しぼんでしまふ仇花だという気がします。

## 幻想によって社会は動く

しかし彼らがまったく無価値なわけはありません。

マルクス流の「存在が意識を決定する」という立場、人間の歴史を土台のところから条件づけ動かしているのは物質的生産力であり、社会の経済的構造が、法律や政治などの上部構造をつくり上げ、さらに人間の意識を規定する、という思想、これはいわゆる史的唯物論ですが、この立場を取れば、女性に経済的自立能力のないニューファミリーの性的平等なぞはナンセンス以外の何ものでもありません。しかしばくは、マルクスの史的唯物論は基本的に間違っていると思つています。人間集団の現象を、つまり歴史の流れを、経済的条件からのみ説明するマルクスの方法では、人間の「意識」は「存在」によって決定されるのだから、存在を問題にすれば十分であつて、「意識」そのものの内在的構造や運動法則などは考慮に入れる必要はない。「意識」は、歴史を動かす要因の一つではなく、せいぜい子供の使いのようなもので、ある経済的原因がある経済的結果にとりつぐぐらい

のことしかできないんです。

この考え方は、集団現象を説明する上ではきわめてすつきりしており、すぐれたものではありませんが、人間心理そのものの重要性をみとめないのだから、歴史における集団と個人心理の関係など、そもそも問題にしています。

しかしぼくは、人間の心理は歴史を動かすもつとも重要な要因の一つであると考えています。

動物は本能に従って行動し、それがそのまま自己保存と環境適応につながる。ところが人間では、性本能もその一つですが、本能がめちやめちやにこわれて了っている。

無人島に置き去りにされた人間の男女の赤ん坊は、もし無事に育ったとしても赤ん坊を作ることはできないでしょう。

動物においては、現実の必要をみたすということと、本能的欲求を充足させるということがピツタリ一致していて、本能の充足が即ち現実への適応です。ところが本能のこわれて了った人間は、自然の現実を見失い、幻想の世界に生きるようになった。さきほどの、女性の肉体的商品化の幻想もこの一つです。

こうして人間は幻想のために働く、あるいは幻想に引きずられて働く。文化とは、そもそも幻想の産物なんで、人間が動物のように完全に自然に密着した本能的存在ならば、本能的必要を満たす以上ものを生産して、余剰価値をつくり出すなどということもあり得ないのです。

しかし人間が幻想によって働くにも拘らず、人間の労働がある程度現実に適応し得るのは、個人の私的幻想が共同化して共同幻想となり、それが一つの擬似現実を構成しているからなのです。この現実が人間の文化であり、歴史です。

要するに、人間の社会にあつては、まづ共同幻想としての上部構造があつて、それが社会の土台になっている。

その意味で、ニューファミリーの夫婦にみられる男女の性的平等は、たとえ経済力に裏づけられていない幻想であつても、やはり全く無意味なものではない。

男の性欲を支える幻想の形が変つてきて、男女関係の他の部分や社会の他の幻想が変らないということはあり得ません。性差別は文化の基盤なのですから。

(談・和光大学教授・心理学)

(まとめ・福田・田中)

## お知らせとお願い

「わいふ」購読者の地域別名簿はないのでしょうか、というお問い合わせが、これまでにもときどきありました。私ももそういう名簿の必要性は感じていたのですが、日々の仕事に追われてのびのびになつていたのが現実です。

最近またそういうお声がふえてきましたので、全国の購読者のかたの間に、どれぐらい名簿のご希望があるか、確認させていただきたいと思えます。ある程度部数が増えたいと思えんと、印刷費や労力の関係から、実現が難しいのです。

ご面倒とは思いますが、名簿をご希望のかたは、ハガキでご一報下さいませ。また、地域的に近いかたが名簿づくりに手を貸していただけたら、大歓迎です。お気持のある方は、どうぞ声をかけて下さい。

(編集部)

## 何と人間的な！

東京都 高野貴子

ニューファミリー——昭和20年前後に生まれ現在結婚年数の短い夫婦（家族）をこんな風と呼ぶらしいですね。その発生や実体は色々な本で紹介されているし、その人達を対象にした雑誌まで出ているらしいですが、結婚八年、三人の子持ちの私から見れば何とまあ素敵な生活ノと思ってしまう。あんな結婚生活が送れたら良かったのに、と思いつながらわが悪友共の新婚生活を覗いているのです。

私のお産見舞にペアルックもカッコ良く子供と共に病院へ現われたA夫妻。子供の世話は彼が見て、彼女と私は学生時代に帰ったように話をした。彼女曰く、日曜の朝食は彼のお料理よ。ああ!! そして妊娠中大きなおなかはかわいそうと毎日狭いトイレを熱湯でふいて下さったNさんの御主人。月に何回かは家族で食事レストランや割烹へ行き、街を歩いたりデパートを歩いたり、かぞえ上げればきりが無い。ああいいなあ、何で私ばかりが午前様の亭主を持ち、結婚以来外食なんて数える程の台所ゴキブリ女房なんでしょう。

一時はメシ、フロ、ネルしか言わなかったのだから、相当なもの。夫婦で子育てなんて考えてみればあたり前なのに、子供の事は母親まかせ、亭主は仕事につき合い主体なんて絶対おかしい。今の若い亭主族が家事や子育てに参加するのはとても人間的な事だと思うのですが、どうでしょう。「わいふ」の読者のお姑様方よ「男児の面目にかけても台所には入らぬように」なんて言わないで下さいね。女房が大変な時は手伝いもするし、自分の事も自分でする亭主なんていいじゃないですか。その上で女房子供がかわいいと思う心を素直に表現するなんて、とても正直でしょう。「自立した男女が契約を結んで結婚する」なんて言うのよりも、もつと実生活的に女の側を理解して思いやりを持った亭主が多くなつたとも言えるのです。

ただ現在ニューファミリー等と騒がれている点は、やたら消費生活ばかり写し出されているのです。確かに高度成長でガツポリふところにお金のあるお父様やお母様からお小遣いをしこたまもらっているニューファミリーも多いですが、低月給でやっている若い人達には、カッコ良く見えても合理的な生活に徹し結構地味にやっているニューファミリーも多いのです。そして働いている女房達の中には亭主と協力しつつ確実に自分の地盤を築いている頼もしい人達も多く見つけられます。

羨ましい、羨ましいなんて言つてばかりいますが、私だつてニューファミリーの人達を批判的に見ている

点もあるのです。何だか自分達の幸せに酔っているからか、知り合い以外の他人にとつても冷たいようですね。それは自分は亭主がやさしいから色々な痛みも薄れるでしょうし、女の幸せ一杯なのかも知れないけど、弱者の多いこの世の中自分達家族以外の世間の事も知っていてもいいじゃないですか。そして直接の参加が出来なくても、社会の色々な不合理を微力ながら変えていこうと考えましょうよ。亭主と一緒に蜜月の夢に酔いしれている時、世の中の大きな波がきて一瞬のうちに全てが変つちやつたなんて考えただけでもゾッとしませんか。

## 「パパとママ」

東京都 鈴木みち子

(30才)

今やニューファミリアなる流行語は遠くにかすんでしまいました。チェリーナのCMで一人で着たおそろいのジーンズもすりきれてしまい、乳母車にのつた赤ん坊は、幼稚園に通うようになり銭がかりはじめ、パパとママのモットーとしていた折半生活も食い違いが始めました。ファッショナブルに気取っていたパパとママの精神生活も、色がうすれてきたようです。生活に銭がかかり始めたので、食生活が、ガラリと変わりました。クロワッサンも、夜の夫婦でワインも消えてし

まいりました。友人との行ったり来たりも少なくなつて来ました。クロワッサンの代りに特大型食パンが朝の主役として登場しました。パパのネクタイの数もふえなくなりました。夢と現実の板ばさみになって、ママの目は少しづつ、つり上つて行くみたいです。「クロワッサン」だの「アレレ」だのという本のグラフィアを見ては、ため息をついて、私こんなはずじゃなかったわノと嘆くのであります。パパも会社での時間と自分の時間との使い分けが下手くそになつてきて、ネオン輝くキャバレーへ足が向きはじめました。

生涯、ファッショナブルでモダンな生活を送ろうとしていたニュー・ファミリア族、一期生の生活は、思わぬ所でけつまざいたのであります。パパとママは、見てくれだけのことにとられすぎていたのかも知れませんが、本物のグラフィア風に、出まどに鉢などおいてみたりしていましたが、心の中の鉢は、根絶やし草になつてしまつたようです。あるいは「とどりのミヨちゃん」が尻をこいた」事件で三日も四日も笑つていたり、「山向うの夫婦ゲンカ」に首をつつこんで犬も食わない代物を食べたがる田舎での生活を忘れようと思つて、グラフィア風生活をしていたのかも知れません。ある日突然二人が黙つちまつたのは、銭の話になつて預金通帳をみせた時からです。かわいい一期生達は、かわいくない一昔前のマイホーム・パパとママに変わつていったのであります。

チェリーナのCMにこそ出ませんでした。がタイプ



違う、ニューファミリー一期生もいるのであります。生活様式は、グラビア風ではありません。おそろいを着て旅行をする事もめつたにありませんし、ちよいとめかしてレストラントに出かける事もありません。生活も折半、じゃんけん生活でもないのですがパパとママは、それぞれに自分の精神生活に対して常に？マークをつけて自問自答、質疑応答をして生活していますので、グラビア風に部屋をかざらなくても良いのです。子供が産まれても、パパとママは変る事なく生活しているのです。ある意味では、このパパとママは冷たいかも知れませんが何十年かすぎた時パパとママは、やっぱりクールなパパとママでいられると思うのです。思えばニュー・ファミリー風生活は、いつの世代だつてあるのです。結婚して子供に対して銭のかからないころまでをニューファミリー時代と云えばいいのではないのでしょうか？それを節操のない日本のマスコミが急にさわぎだしたので、流行に敏感な地方出身者同志のカップルをやたらしげきしたのであります。しかし、しっかりと独自の生活理念を持ち、各々に責任を持って生活しているラジカルな夫婦は、おそろいのジーンズでなくてもモダンな精神生活を送れると思うのです。こういう人達を称して『スーパ・ファミリー』というのです。

婦人民主クラブ歴史講座 開催!!

- 日本史の中の女性——
- ▽ 10月29日 原始女性は太陽であったか  
——比売神をまつる神社—— 金 達寿
  - ▽ 11月19日 女帝と国家の源流  
——推古・斎明・持統—— 永井路子
  - ▽ 12月17日 うたにいき・恋にいき  
——万葉の女たち—— 山本藤枝
  - ▽ 1月28日 女房文学・その背景  
——紫式部・清少納言—— 杉本苑子
  - ▽ 2月25日 政治と女性  
——女将軍北条政子・建礼門院徳子—— 永井路子
  - ▽ 3月25日 道具としての女  
——戦国女性の運命—— 山本藤枝
  - ▽ 4月22日 心中と女大生  
——くびきを背負う女たち—— 水上 勉
- 時間 午後二時～四時  
場所 千駄ヶ谷区民会館（国電 原宿駅下車徒歩約五分）  
会費 一回 七百元  
日本の歴史をたどりながら、それぞれの時代に見る女性に、その果した役割り、その位置づけ、また女のあり方の変化などをさぐる講座です。お友達をさそつて、ふるつて御参加下さい。お申し込みは婦人民主クラブまで。

電話（四〇二）三三四四

# 座談会

## ニューファミリーと

### 編集部

持田栄一 50代

(大学教授)



持田 観念としては男女平等なんだ、みんなわれわれは……しかし機能分担で飯タキやオムツ洗いをしても平等だと言うが、これは実質上は不平等ですよ。男と女の共同性を作らないで平等と言ったって絶対平等にはならない。形式的な平等は、実質的な不平等を作るだけです。機能分担をして女は育児、男は働きという関係でやっている限り男性優位は続くと思いますよ。

矢崎一成 30代

(広告会社経営)



矢崎 結婚した当初は共働きでしたが、なんとなく「料理は女が作るもの」って、彼女がやり始めた。ところが二人分のカレーを大鍋にいっぱい、しかも水々しいスープのようなを作ったりして……腹が立って、ツイ声を荒げましたよ。だけど彼女も働いているし「料理は女」って考えること自身がおかしいと反省して、それからはアドバイスしたり、僕も台所に立つようになりましたが……

機能分担では  
女は分らない

編集部 今日各年代の男性にお集りいただいたわけですが、男とか女をあまり意識なさらない方が多いようで、いささか困惑しています。持田さんなんかは「男女七才にして」の教育を受けられたわけですね。

持田 そうですよ。『席を同じうせず』というわけで、通学の電車も前の方は中学生、後は女学生と決っていた。分けられると興味が出ましてね……分ければ分ける程興味が出るが、これは異質な興味でありまして、極めて歪められた興味でしょうね。当時の切り離された方を見ると、やはり男子優越ですから仕事の面でも能力でも絶対女に負けない。男子たるもの女子供に負けてどうするんだ。(笑い)

しかし小学校は、田舎の小さな小学校でしてね、優等生は女ばかりで女に負けていたわけだけど……

編集部 異常な興味って、どんな興味ですか。

持田 僕なんか結婚して女と共同生活をして始めて女性というもんが分ったんです。

# 特集

## オールドファミリー

— 世代によって女性観はかわるのか？ —

### 司 会

すよ。切り離されていけば分らないわけですから神秘化して美化したり、或いは無視したり、正当な評価はできないわけですよ。

ぼく等、五十代と言っても戦後にも育つてるわけです。大学時代は戦後の解放期でしたからね。しかし解放されたと言っても、本当の解放じゃないですね。男女が共同して何かをやるのではなくて機能分担論で、適性にに応じてってことでですから、女は良妻賢母の方に行く。

戦前のように男は女より偉いとは思ってはいないけど、互に取柄が違うんだと言う分担論では、やはり本当の意味で女は分らないわけですなあ。

**編集部** パートナーとして女と一緒にやっていこうと思わないわけですね。

**持田** パートナーとして仕事をして、おれはこれをする、女にはあれをさせる。つまり女房との関係となると、子育てはお前さん、エサ拾いはこっちという型で機能分担になってしまふ。

ぼくは女性との共同化を考えているもの、やはり観念にしか過ぎないですね。そういう意味でお互いが知るところまで行っていない。ぼく等には家事も子育て

井上文雄 40代

(自由業)



井上 大体、こういう企画を立てるってことは、企画を立てる側の女性が偏見に満ちた男性観を抱いているためなんじゃないか(笑い) われわれ男性が、女はこうだっていう偏見を持っているに違いないということなんだろうけど……ぼくはそういうことはないですねえ。ぼくは付き合ひの中で、男とか女と違ってあまり意識しないで来てますから、今日の座談会にむきませんよ。

矢島一夫 20代

(デザイナー)



矢島 いま、たまたまニューファミリーと言われる年代で、生活もそうなんです、ニューファミリーと言う言葉はピンと来ない……当然のことをやっているのですから。料理は自分で作りたいので、自分の好みの調味料スパイス等は買い揃えて置きます。洗濯も掃除も気が付いた方がする、男も女もないんじゃないですか？ その意味で、非常にシブアーに女の人を一人の人間としてみます。

も分らん。

編集部 正直なところですね。

## 五十代

そもそも

悲劇の発端は……

持田 ぼくなんか田舎で育ったせいかな男の子は台所になんか入っちゃいかん、と言われて育った。だから海軍で土浦に居た頃、エサが足りないのでスキヤキをするとうだとか、と食物の話ばかりになる。すると都会で育ったヤツは家が小さいからお母ちゃんの手伝いで台所のこと知ってるよ。ぼくみたいに田舎から来たものは分らないわけですよ。同じ世代でも都会と田舎のヤツとは違っていた。大体、田舎の方が本流でしたよ。

男の子は台所なんかやる暇あつたら勉強せい、女の子は勉強せんでもいいから台所をしつかりやれ。いま考えると、そこが決定的に違つて来る分れ道でしたね。そういうふうに着つちやつているから、いま男女共同して何んかやるうと思つても体が動かない、だから機能分担論でごまかしてやるわけですよ。(笑い) それぞれ得手があるんだから得意のことをやつ

ていれればいいじゃないかって……。むかし、ぼくらは共稼ぎをしていた。同じ旧制高校を出ていても、ぼくのように教師をやつたり、大学に残つたり、新聞屋さんなんかつてのは共稼ぎが多かつたですよ。大企業のエリート社員とか、大蔵と

かの中央官庁にかぎつて、女房を働かせるのは……つてね。同じ世代でも職業によつても違うわけですよ。僕なんかは働かせることまでは抵抗ないんだけど、そこから先の共稼ぎのあり方みたいなことになるかと頭で分つていても体がついてこないですよ。

編集部 それでは女はたまりませんよ。

持田 機能分担で、エサは女房のあてがいぶち。一応信用しとるだけで、何を食わされているか分らんですよ。

編集部 悲劇ですね。

持田 人間として悲劇ですな。男も自立しなければならんですよ。そういう意味では井上さんなんかいいでしょう。

井上 いいえ、エサの方だけはダメなんです、これから頑張りたいわけ。自分が生きて行く上で誰かに頼らないでも出来るって状態にしたいね。基本的な食が出来ないのは致命的ですよ。あなただけが

頼りつてことでは……

持田 僕だつて海軍の頃は靴下も繕つたし、掃除も洗濯もしたんですよ。帰つて来た時、おふくろが吃驚したな。それを結婚して女房がセッセとやるから出来なくなつたんですよ。

## 四十代

自分の身の廻りのことは自分でするが……

井上 この夏、軽井沢で僕の友人の家族と二日ほど暮したんです。

非常にプラスになりましたね。僕というより女房に……持田さんと同年令なんです、彼の奥さんに対する接し方を見ていると昔の僕のオヤジを見ていた感じがした。女房を呼ぶのにポンポンと手を叩くかオイと呼ぶわけ。するとチャンと来るんですよテキは。(笑い)不自然じゃなく来る。僕が家で手を叩いたらナグられはしないだろうが、セセラ笑われちゃう。とにかく夫に仕えているんですよ。

彼の父親は軍人でそういう環境で育っているが、僕のオヤジもすぐ封建的な人でした。ただし彼の家庭も核家族でスタートしたことは僕の家族と同じなんです。

すよ。しかしこういう夫婦もあるんだな。うちの女房なんかもつと亭主によくしなければと思つたんじやないかな。

**編集部** さあそれはどうかかな？（笑い）

**井上** 僕のおヤジなんか、着物を脱ぎ散らして風呂に入るのを、母親が拾つて歩く。着る時だつて、ただ立っていれば後から着せる。そんなのを見て育っているが、僕は自分の身の廻りのことは自分でやらなければ気がすまない。

自分の身に付けるものは全部自分で買ふし肌着は風呂に入ったとき自分で洗う。人手を煩わしているのは、食事と掃除かな。

うちの女房は低血圧でときどき倒れると家の中はメチャメチャになる。だから消費者運動なんかで外に出ると、僕は足を引っぱるんですよ。僕の大事な人ですからね、エサ係として……

僕は今からでも食事作りを教わろうという気持があるんだけど、女房は台所に入つて来られるのが厄介なのか教えてくれないですね。

**編集部** ホントにやりたいのなら、教わらなくても出来るはずですか？

### 三十代

ネギ買いに抵抗あれど  
キザむは楽し……

**矢崎** 僕は台所に入るっていうより、自分で料理作つたりすることに積極的なんです。井上さんたちの頃の教育とかしついでではそういったことは全然なじみはなかつたんですか？

**井上** ないですね。全然エンがなかつた。

**持田** 僕なんかも八百屋にまでは行けるのだけど、買つて来たネギの料理が出来ない。だからそこでも機能分担になつて亭主は自転車でネギ買いに、女房は買つて来たネギをきざむ、ということになる。それがおそらく三十才以下になると違つてくるんじゃないかな。

**矢崎** 持田先生は本当にネギ買いにいくのに全く抵抗ないんですか？ ぼくは意識しますね、抵抗を感じますね。

ところが作ることに關しては、魚を三枚におろしたり、包丁を揃えたり、鍋などもプロっぽいものを探し廻つて買つて来たり……

外で味わつて美味しいと自分で再現してみたいと思う。それに料理は女房より

上だつていう自信もある。

**持田** ほほう！

**井上** それは世代じゃなくて、そういうことの好きな男性はどの世代にも居るんじゃないの。私の伯父は八十才だけど台所が大好きで、客が来るとかなり本格的な料理を作る。コーヒーの入れ方一つにしても本格的でしてね……

**編集部** それは違うんじゃないですか。趣味ですよ。

**井上** 男はみんな多少趣味なんじゃないの？

### 二十代

グータラママは  
蹴つとばす

**矢島** 僕の場合は、嫁さんの友達が出来たときは、僕が全面的に料理を作る。僕の友達が出来たときは嫁さんが作るつて型です。その方が合理的ですからね。

**井上** ほう？……やつぱり違いますねえ。

**矢島** 僕の世代でも家に帰ると、「お茶」つてさわざ、あとは「メシ」つて言うのも居ますよ。僕個人は、帰宅して食事も出来てなくとも何んとも思わない。たまたま嫁さんが作りたくなかつたから

作らなかつたんだらうと思うだけです。その時ぼくが作りたければ作る、作りたくなければ一緒に食べに行く。

**編集部** 矢島さんは共働きですか？

**矢島** うちの嫁さんは先生してるんです。ですから時間はあるんですが、趣味の多い人であちこち飛び廻ってばかりいる。

**編集部** もし嫁さんが専業主婦だったとして、外から帰って来たとき食事の仕度が何も出来てなかつたらどうしますか？

**矢島** それはおこりますね。当然だと思えますよ。家事だけをするという型で結婚するなら、それは仕事の上で一つのブ口だと思えますのでね。家の中にズーッといて何もしなかつたら、これはやっぱり蹴っ飛ばしますよ。

**井上** ああ、そうか？……僕の友達夫婦なんかもそれなんだなあ……

### なぜ結婚するのか

#### 二十代と五十代の間

**編集部** 男が結婚する理由に、外食がイヤになつたというのが多いんですね。

**矢島** ぼくは無いですね、それは。結婚したら部屋をきれいにしてくれるだろう

か、おいしい食事を作ってくれるだろうなんて期待はしない。

この女は面白い女だかつていう意識が強いですね。こいつと一緒になつていろいろ話をしたら楽しいんじゃないか、一緒にものをみたら違った見方も出来るんじゃないか……という期待です。

**編集部** 大分違うようですね、世代別で。

**持田** 僕の結婚は昭和二十七年、戦後ですがね。僕みたいに田舎から出てきて十年近く殺風景な下宿と大学の研究室の往復ではね……退屈したと言うか、しんどくなつたというか（笑い）だからどうでもいいから誰かと一緒になつた方が楽しいやないかって言うことですよ。（笑い）

僕らの世代でも、ずっと家庭から大学に通つて就職というキャリアの人とか、大蔵官僚や大企業なんかの友人となると、ちよつと違いますね。

ぼくらは形而下の身体的生理的なことから、形而上の精神的なことまであつてね……いいかげんしんどいからつてことですよ。

**編集部** しんどさの一番の原因は、やはり日常生活ですか？

**持田** そうですね。結婚してやせる男は

育ちの良いやつでね、僕なんか毎日外食で研究室のボヘミアン生活してたからブクブク太つちやつて（笑い）……だから世代では分けられんですよ。

**編集部** 井上さんはどうですか？

**井上** 僕は末っ子でしたから、おふくろはもつと面倒をみていたかつたらしい。それに下宿した経験も無いわけで、もしあつたらいま一人で生活しても少しは暮せたんじゃないかな？

とにかく今、女性なしでは困るんだから……少くとも食べることに……

**編集部** 女も男性なしでは食べて行けない。  
**持田** 女の方が不純な動機で男にくついている場合が多いでしょう。

**編集部** しかし、経済的にも自立したいと願つても、現実には子供が小さいと動けない状況がある。だから自立しようとする女の中には、産まない方がよい、もつと進むと結婚自体を否定する人が出てくるんですよ。

**持田** 男女の共同性は結婚という形態をとらなくてもよいという考え方も、当然あり得るわけだ。

**矢崎** 僕らは共学の中で、キャンパスとかサークル等で男女の出会いの場があり、

互いに確め合う経過があつて自然に共同生活を始める人が多かった。結婚しているのと同じ営みをしているのだけど、価値の置き所が違う。ああいう共同生活は、見ていてさわやかで良かったな。

**持田** 僕らには出来ないことですな。いくら革命的なことを言つても戦前的な体制が作用していてね。

法律的には結婚せず、表面上は未婚の母になつたりするが社会的には結婚している人が近頃ふえてますね。

**矢島** 所謂、同棲には僕は批判的ですね。いざ別れたりするとき、何んだかんだつて言つても男の方が強い立場にあるですよ。だから男の方が逃げていく気がしてならない。

〃食わしてやっている〃

平等という不平等

**矢崎** 結婚して四年位一緒に働いてました。子供が二人生まれて、彼女が専業主婦になつてからは、僕は趣味の部分で台所に立つだけですが共稼ぎの頃のいたわり合いみたいなものはずっと続いていきますね。

**矢島** うちの嫁さんなんか、僕のとつて来る給料で食うつもりなら食えるんですよ。ところがそれはイヤなんですな。人に食わせて貰つていてる状態には耐えられないと言う。たとえ別れても、自分自分分分分で行ける社会での基盤をいつも持つていたんですよ。

**井上** 私の母は、面と向つては父に言えなかつたけど、父の〃食わしてやつていふ〃つてセリフが一番口惜しかったつて言つてましたね。

**矢崎** 男の側から言つてはいけない言葉ですよ。言うべきではない……。

**編纂部** しかし現実には今も言つてますよ。脈々と続いているようです。

**井上** そうですか？ エリートサラリーマンなんか言つていけるのかなあ。でもホントに〃食わしてやつていふ〃つて言うんですか？

**編纂部** ええ、あるんですよ。

**持田** 言わなくても今の社会の構造では男が食わしてゐるのは事実ですよ。

**編纂部** そう言われてもしかたないですよ。だけど、GNPには出ないけど、自分は家の中で非常に働いている。家事、育児は立派で大変な仕事。養われているな

んで感じるのは被害妄想で、平等なんだからちつともひるむ必要がない〃つて言う主婦の声も多いのですが……。

**持田** そんなの平等じゃないですよ。いくら〃私は家事をしています〃と言つても、亭主を通してGNPに關係しているわけで亭主が死んでしまつたら何んにもならんでしょ。男はエサ拾い、女は子育てという機能分担は、資本主義社会が作り出した一つのメカニズムなんだ。商売人とか百姓のところにはそんな分担なんか無いですよ。

われわれの家庭は、近代市民サラリーマン家庭だから、その構造にアダプトしているからそうなつていふ。その中で、いくら女が観念的に平等だと思つても、現実にイザ別れる時、子育て家事に専念すればするだけ困るのは女だ。男は困りやしない。これだけでもはつきりしてますよ。

新型良妻賢母

適当なところで理論闘争を……

**持田** 男から見た場合、良妻賢母も悪くない、なかなか結構なんで……(笑い)

しかし良妻賢母の中味が相当変わって来ている。

一番古い型は、三つ指ついでハイハイつてヤツで、これはいいんだ、一番。(笑い)その次は、僕らの世代で、少々は家に帰ってもやり合わんといかん、理論闘争デイスカッションを……(笑い)昔はくはお茶大で講義していた。この頃は津田ですがね、津田の教育なんてのは、新型良妻賢母なんだ。一応は、あなただめよつて批判したりするが、結局は良妻賢母なんだ。

お茶大の学生の話の聞いてみると、隣りに教育大があつても、やっぱりお茶大は東大だと、かね。(笑い)

## 河野信子 女の論理序説

### ・族母的解放の始源

(女の論理)を書きつづける著者が、その作業のなかで思考の渦として表現したものを一冊にまとめる。工高群逸枝との出会いのために、II 無名巡礼 III 新ノアの方舟 IV 訪中レポート IV 女の対話

1300円

**編集部** 何んですかそれは？  
**井上** 結婚相手がですよ。

**持田** それは、本当の人間の連帯ではなく、今の学歴社会、市民社会内のステータスを前提とした上で、適当なところで理論闘争ぐらいできる家内つてとこでしよう……皆さん方もそうなんだと思えますよ。

**編集部** 女を定義するとき「良妻賢母」というふうには見えない。大人の女を見れば「奥さん」としか出てこない。こいつは人の女房であるというとならえ方しか出ない。女を一对一の人間として見るこの出来ないのは、五十前後の男性に多いようです。

**持田** 僕らの世代だと、人間と、女と、妻と、主婦と、母親の顔がずれてしまうわけですよ。だから人の女房に女として接したら悪いと思うし、妻が夫以外の男と親しく話すのはよろしくないとか……何んていったつて封建道徳は根強いです。

われわれ世代は、一から二への移行期で、ぼくは五十代と云つても五十二ですからね(笑い)こいつは重大なんだ……その次の世代となると、僕らがそうじゃないから分らんけど、市民運動と一緒にやった仲間だとか、世の中の常識で言う学歴が違つたりでバランスはとれんけど何かの連帯があつて、機能分担で

## 教育労働研究 9

**編集** 村田栄一 戦後教育の中の教師像 兵庫解放研究の  
**実践** 武藤啓司 暹塞の職場状況に  
**あつて** 藤吉の場所 野中知行 小説 畏の  
**なかで** 石田甚太郎 川津庄二 入門記  
**組** 藤成 銀河 銀道 松永 津子 心理テスト  
**の** 諸問題とビネーの精神検査 津田道夫 中国教育  
**育** 渡部 淳 村田栄一 ほか  
**改革** 950円

## 女 エロス 第9号

780円

**特集** 売春 是るかなるエロス  
性徳徳からの解放 深江誠子 男性ライター  
の書いた「従軍慰安婦」を斬る 丸山友岐子  
性労働の経済学 田中由布子 文学の中の  
娼婦 駒尺喜美 五彩の虹 溝口明代 片隅  
の人生 田中さち子 (対談) 売春を通じて  
女の労働を考える 谷村三津子 吉清 一江

## 社会評論社

東京都文京区本郷2-5-10  
電話 03(814)3861



なく男と女が本物の共同性みたいなもので結合しているんだ。

## 二十代から五十代まで

世代は変わったが……？

**矢島** 僕ら共学の中で育つて、少くとも女の人を抽象化することはなくなりましたね。女を一人の人間として見る。女の中でも人間的な味を持った人と、全然いだけないのとははっきり見られるようになったのはプラスだったと思いますね。

僕ら世代でも完全な男子高とか女子高の人がいますが、その点何か違いますね。

**井上** いくら共学でも、好きになると別世界の人のように感じるの古今東西を通じてあるんじゃないの？

**矢島** 一目惚れはしない。一目見て可愛いい人だなんて思ったら、話をするきっかけをすぐ作ることが出来る。かなり、しつこくすることも出来る。(笑い)  
そして話をしてみたら、あかんわと言うことになる。

**矢崎** 僕は男子高でしたが、大学の共学の中で、女は石みたいに固くてフレキシ

ブルでないという女性観が強くなった。昔、家に友人が訪ねて来たりして、中にケーキなんか持って来るのがあると、母や姉達が「あの人は優しい人だ」と、ケーキが人格にまで及んでしまう。(笑い)  
男たるものはドーンと大きいことで家族に何かしてやればいいんだと内心おだやかじゃなかったな。

コミュニケーションの問題では、男の周囲には、何もなくても、言わなくても通じる省略が作れる。ところが女には省けない。余白を全部言葉とかで、埋めて貰わないと気がすまないのね。

その余白を埋めないで突き放している世代が四、五十から上の方で、それ以下は女の余白部分に手を差しのべてあげるところがあるんじゃないか……だから損をしますよ、僕らは……

**矢島** そうそう、女を解っちゃうから、余白を埋めてあげなくてはならない。

**編集部** 余白を埋めるなんて、ホンのちよっぴりの努力でいいんで、つまらないことなのに、なぜしんどいんですか？

**矢島** つまらないことではないですよ。男にとつては大変なことですよ。

**編集部** 女は過去ずーっと、男の省略とや

らを理解するように、長い間一方的に努力させられて来たんですよ。

**矢島** 昔の女性は本当に偉いと思いますね。非常に男が分っていて、いたわりが自然に出来た。今の若い女性にはそれが無いですよ。

**編集部** 偉いんじゃない。習慣に過ぎない。女の道徳とされてしまつて、やるより仕方がなかったの、別に心の問題ではないですよ。

**持田** 余白を埋めるという意識でとらえるか、そんなの生きて行く上で当たり前、と考えるかだ。

僕らの世代は、余白を埋める、と考えるんだ。その考えの底には、オレの本職はそうじゃない、本当の男らしさとは世の中でパンパン仕事をするのであつて家に帰つていたわつたりするのは本物でないっていう機能分担論があるんだよ。

あつた上で、なおかつ家に帰つて手を差しのべてやる、オレは立派なやさしい夫である」ということになる。(笑い)  
若い世代は、余白を埋めてやるのではなく、あたりまえのことになっていると思つていたんですがね……？

(まとめ—林)

# 君が代通信

—その三—

## 亀山利子



毎年八月十五日を記念しておこなわれるわだつみ会の講演に、今年はじめて出かけていった。今年のテーマが、「戦争と君が代体験」だったので。

昭和五年生まれの田中乙彦氏（上智大 学教授）の、「一軍国少年の回想」と題した講演が、もうはじまっていた。

「ぼくは君が代で育った世代だが、ぼくの中にどれだけ天皇がくいこんでいたかといえ、わりに少ない。親はカトリックだったが、自分は優等生だったから、上級生に、キキサマ、天皇とキリストとどっちがえらいのか」ときかれても、ぼくは、天皇陛下であります」と答えればい

いんだというたてまえを知っていた。

出征についても、天皇のことは直接考えずに、死のことを考えた。死のことを思えば天皇につながる構造だったが、それには気づかずに……。

中一のととき、おれは死ぬ運命にあるんだ」と気づいた。押入れの中で泣き、ときどき出てきてはおふくろのところへゆき、なぜ女に産んでくれなかったのか」とうったえる。「ばかね」という答がかえってくる……」

それから三十五年後の今、家の息子がちょうど中一である。

中一の息子に、なぜ女に産んでくれな

かったか、といわれた時のおふくろの気持が一瞬でものりうつつた余韻があつて、私、おふくろ、その夜息子にこの話をした。「えっ、なぜ死ぬ運命なの？なぜ？」ときよとんと無邪気にきく。説明すると「あ、そうか」といったものの、映画の「きけわだつみの声」でもみなければ、イメージがわかないだろう。そういうえばこの日、私の近くの席で、終始泣きじやくりながらこの映画をみていた若い女性がいた。

「当時、恋人がいるというのは大変なことでした。恋人のいる人は、戦争を疑うことができた。恋人のために、自分は死にたくない。なぜ、天皇という他人のために、自分は死ななくてはならぬのか……」

「ぼくは天皇を愛していなかったが、国のため、日本人のためには死のうと思っていた。

その反動のせいかな、今は人間ぎらいで日本ぎらいです。一年前はじめて、オレは日本人なんかきらいだ」と口に出したら、それからとても気持がらくになりました。」

恋人がいる人は疑うことができたその頃。今、恋人がいてもものをうたがうことをまったく知らぬ若者は大ぜい。

もしもそう思うのならば、「日本人なんて大きい」と遠慮せず、自由に氣がるに云える私たちに向つて、当局は、君が代をうたつて国を愛せよ、という。君が代をうたわらない人は、国を愛さない人

だという。君が代を国家とみとめないといつた人々に対して、今回の学習指導要領作成の責任者（文部省初等中等教育局審議官）、奥田真丈氏は、「じゃあ、あなた方は日本人じゃあないんだ」と云い放つた。

国を愛せ、愛せというが、そもそも、愛は、命令されて湧きあがる感情だろうか。心の中におのずとはぐくまれ、あふれてくるのが愛であり情である。好きでもない男から、「ぼくを愛せよ」といわれれば、私ならスタコラサッサと逃げ出すし、あまりしつこくいわれると、愛ともつとも対極的な感情、憎しみさえ湧いてくる。

学校の職員室で、君が代はきらい、と云い放てないのは、深刻なことだ。「王

将」がきらいといつても、「ラブ・ミー・テンダー」がきらいといつても、なんら問題にならないのに、君が代がきらいといえないのはなぜか。レコード界でも、永六輔氏によれば、君が代をワルツやマシボやどどいづに編曲しようと思つたら、君が代でふざけてはいけなくクレームがついたという。

今から七年前、卒業式に君が代をうたうな、かわりに校歌をうたおうと生徒を指導した佐賀県の中学校の教師四人は、町教委から文書訓告をうけた。君が代斉唱のとき、自分の担任の卒業クラス全員にまわれ右をさせた群馬県の中学校の教師は、退職金も年金もない懲戒免職の処分（罰としての解雇）をちらつかされ、自ら退職願を出した。（前日の予行演唱で、君が代をうたわなかった生徒たちに、「そんな奴には卒業証書をやらないぞ」と校長は威嚇している）抵抗のやり方に多少の飛躍があつたのかもしれないが、これでは、内村鑑三が教育勅語に最敬礼しなかつたために一高教授の職を追われた明治二十年代と、体質はなにかわつていない。

君が代のまわりに、プスプスとタバブの香りがたちこめている。

国家が先か、国民が先かと問われれば、国民ひとりひとりのために国家はあるのであり、国家のために国民がいるのではない。

これを逆転させたい力が近頃大きい。なによりも先にまず、国家の歌「君が代」が存在する、というわけである。国民の喜怒哀楽を無視して、ブルトラーのようにならぬ、国民が正直に自分の感情や意見を表出できる国であつて、その多様性をゆつたりとみとめてくれたら、逆に「愛するな」といわれても、その国を好きになるのに。

卒業式の君が代斉唱に反対する教職員に、こう反論した校長がいる。

「憲法の第一章には、天皇について書いてある。まずはじめに天皇のことを書いてある憲法をもつこの国で、天皇をたたえる歌をうたつて、なにが悪い。君が代は、憲法にふさわしい歌であります」日本国憲法の第一章に天皇がくるのは、たしかに明治憲法の形式の継承であつて、

制定時の、当局の、民主化の意志の不徹底の結果（それは同時に、民主化を求める国民の意識の未成熟さのせいでもあった）とは思ふのだが、こんな時にこんな反論につかわれるとは、私はゆめ思わなかつた。君が代の君は、国民をさす、といわれた時と同じようにおどろいた。

しかし、古い新聞をめぐってみると、昭和二十二年五月の新憲法発布の祝典で、当時の吉田首相の発声により、会場をゆるがす「天皇陛下万歳」がとなえられたという。憲法と「君」は、こんな頃から癒着していた。当時、山川均は、この万歳三唱についてするどく警告している。

「憲法の民主主義の精神と、長い間、伝統と作爲的な教育とによつてかためられた国民感情（や感覺）にはまだ大きな間隙がある。これがなくならないかぎり、ほんとうの意味で、日本に民主的な憲法ができたとはいえない」

憲法発布の祝典に、天皇陛下万歳をとなえた人々と、今、君が代をおしすすめる人々の間には、あつい共通の血潮が脈々と流れている。

だれがなんといおうと、大日本帝国憲

法の感覺と、今の憲法の感覺との差を実感することが、民主主義の基礎、市民意識の基礎だと私は思っている。臣民と人民（憲法では国民と書いてあるが、英語でいえばPEOPLEである）の差である。濁点があるかないかの違いだけだが、その違いが国民の意識に定着することを、為政者はもつとも憂えている。

「明治憲法はそれなりによかつたのである。新憲法と明治憲法を比較するのはおかしい」

「明治憲法を、日本国憲法と比較して非民主的だなどと評価するのはまずい」などという注文が、教科書検定の際、検定官からさかんに出された。

「明治憲法についてはその先進性を中心に書け」

「日本国憲法に天皇の制度がのこされた積極的な理由にふれよ」

基本的人権の感覺をうすめ、否定するものとして、公共の福祉という言葉がさかんに使われる。

「労働者の団結権、争議権に関する記述は公共の福祉との関連を考え、ストライキは、社会公共の利益をそこなうこと

があつてはならないことにふれよ」  
公害についても、「公共の利益について積極的にふれよ」と、神経過敏になる。

昭和三十年頃からもう二十年近く、このような注文によつて徐々に、徐々に軌道修正をしてきた教科書で育つた若い世代が、もはや教員たちの三分の一近くを占めているだろうか。のびのびと明るくスマートだが、残念ながら、言論の自由に敏感でなく、君が代論争を迷惑がり、物事を深くしつこく考える癖がないゆえに、結果的に君が代賛成論者になりやすい。

知らないということは、のびのびと無邪気でもいいが、批判能力もないということにもなる。われわれ旧世代は、君が代にきちんと制裁を与えておかなければならなかつたのだ。数十万の日本人の、死の道への門出のうたであり、戦争への思想総動員を中心になるうただったと、はつきり書きそえて、国会で廃止決議をするべきだった。そのようにはつきりと消滅させることが、逆に若い世代に教え残すことになつたのだ。それを思いつかせないほど、自発的思考を奪う長年の

天皇教育は根深かったともいえる。

天皇制教育とか天皇教は、思考停止をさそう大がかりな仕掛けである。あるところまでいくと、ぴたりと考えるのをやめてしまう。別にがまんして考えないのでなく、おのずから自発的な思考がとまり、とまったことを意識しない。君が代タブーと、日常の働く場で文部省の教育政策を堂々と批判できない息苦しさとは無関係でない。指導要領の存在そのものも私はおそろしい。新しい改訂案が出た六月九日の朝、「君が代は国歌に」の見出しを見て、私は「出た、出た、出たあ」と叫んだが、指導要領改訂そのものについても「もういいかげんにしてくれ」というおもいがあつた。コンピュータではあるまいし、中央でスイッチを入れれば、全国の教員がいつせいに右へならへすることを疑わない、いやそれを是とする感覚のあつかましさ。ひとりひとりの、生ま身の間である教員たちの判断は、どうなるというのだろう。

どうかわつたかだけが問題にされて、教育の内容に国家基準が出されること自体はいつこうに問題にされないのは、これはもうある種の思考停止のはじまりで

ある。

八月十五日に消滅した大日本帝国のうたを、今さら、ぬけぬけとうたうような精神のみさおのない日本人にはなりたくない。世論調査では大部分が君が代を支持している、といつもいじめられるが、そのアンケートでも、「公式な会合で必ずうたうようにするかどうか」については、自由な判断でよい、という答が七五・八パーセントなのである。(昭和四十五年二月十一日、サンケイ、きょうの世論) 君が代がいいと思っている人でも、それを全員に強制するべしとは思っていない。ひとりひとりの自発的な行為でよいと思つているのである。

アメリカ、ニュージャージー州のマウンテン・レイク高校二年のデボラ・リツプさん(十六才)は、「国歌吹奏、国旗掲揚の間は起立すべし。もしそれに従わない場合は退学処分にする」と学校からおどかさされ、「立つていようが座つていようが個人の自由であることを再確認したい」と、今年の五月、米国民連合を通じてニューヨーク連邦地裁に提訴した。

これをうけて八月十六日、日・カーチス・ミーナー判事が下した判決は、

「国歌吹奏、国旗掲揚の間、神妙に起立して見守るといふ、国家への忠誠の誓いを象徴する愛国的行為は、あくまで自発的なものだ。法律でそうするよう義務づけるのは、憲法が保障している個人の自由を侵すものである」

もちろん法律で国旗、国歌が定められている国である。そればかりか、多民族国家ゆえに、国民に共通の国家意識を育てるために星条旗が大きな役割を果し、国旗侮辱罪が存在するこの国でさえ、この判決がありうる。

詭弁を弄し、策略をめぐらし、おどしをかけなければみなに歌わせることのできない歌は、それだけでも国歌の資格はない。君が代はうすよごれている。大きな政治的変革のないままに新しい国歌をつくるのはむずかしいかもしれないが、戦後三十数年の文化的繁栄を経て、新しい歌をつくる力をもっている作曲家は何人もいるだろう。たとえそれまで国歌はなくとも、私たち国民は元気で生きていかれます。(以上)

# 男女必修

話す人

足達 喜八郎

(ふとん店経営)



安達 ごらん下さい。これがインド綿です。インドのアッサムというところで産する綿でして、もつともふとんに向く、上等品です。

——黒いですね。

安達 固いです。これがいいんです。

こちらはメキシコ。米綿というやつで、ミシシッピ沿岸、ニューオルリンズなんかもありますが一等下ります。それからこれがテトロン。

——まっ白けで、ふわふわですね。

いまではこの三種を混ぜて、ふとん綿にいたします。何しろアッサムは、インド政府の輸出禁止令で、非常に値上りいたしましたから、これだけでは使い切れません。

——どうしてまた輸出禁止なんか？

安達 それはですね、インドでは、米国から原綿を買って、綿布をつくって輸出しておった。それが何しろ、あそこはドル不足ですので、できるだけ外貨を節約するために、自分とこで、さる綿を使おうとし、輸出を禁止してしまつたんです。

——でも日本でふとんが値上りじゃ、困るわね。

安達 たいへん上りました。二倍になった。

——いやあね。どうしたらいいんですか。安達 できる限り、打直してお使い下さい。

——その打直しですけれど、このごろは打直し賃が高いから、使い捨てたほうがよいなんて話もありますが……。

安達 いや、そんなことは……今小売店で打直しはキロ三百円くらいでしょう。敷ぶとん一枚、六キロから七キロ、仕立が千五百円ほどですから……。

——だいたい四千円くらい？

安達 そのへんです。三、四年に一ぺんのお手入れですからね。

——ベッドの上に置いてあるからってんで、二十年も打直ししない人を知つてるんですが？

安達 きつと固まっていますよ。打直ししないと、脂肪がぬけて、水分を吸いやすく、固まりができ、干してもふくらまなくなります。

——体にもよくない？

安達 そうですね。脱脂綿をごらん下さい。水を吸い込んじやうでしょう。ああいうふうに、汗を吸い込むようになる。

# わいふ家庭科

## ふとんの裏ばなし



では、新しくふとんを買う場合、どのような注意がいらしますか。

安達 まず、月賦屋はおよしになったほうがよい。うちなんかにも注文が来ますが、もう、タイでタイで、とてもいいものは納められないのです。

——デパートは？

安達 間に商社も入りますからねえ……それにやっぱり、バーゲンが危いのです。

——西川なんて、大きなふとん屋の品物だったらどうでしょう。

安達 まあ、西川なんかだったら、一おう大丈夫と思いますが、しかしバーゲン品はどうですかね。

——何しろ中味は見えないし、見えたところで素人にはわかりませんね。

安達 そうです。結局信用できる店で買うという以外ありませんね。

——近所の？

安達 そう。ずっとそこで商売してるんですから、へんなことでもできませんし、それが一ばんよろしいでしょう。

まず、綿をお買いになって、仕立ててもらおうのがまちがいありません。掛ぶとんは、このごろは化せん綿ですね。あれも、綿で買って、仕立ててもらおうとよい

のです。テトロン綿が、一・五kgで二千五百円ぐらいですから。

——化せん綿のふとんも作れるのですか、そのほうが中味がたしかですね。

安達 今ではたいていのご家庭で、マットレスを敷ぶとんの下にお敷きになりますよね、もつとも独身の方なんか、敷ぶとん無しという人もいるが、(笑)あれもよしあしがありまして、メーカーの名前の入っていないのはいけません。メーカーは、自分とこの品物でも、下級品には名前を入れないのです。中味を見れば、下級品はこういうものです。上等品はこちら。

安達 それからふとんの布地ですが、これもニチボーならニチボーと、メーカー名の入っているのが安心です。

——そうそううちのクツション、パンヤが粉になって困っているのですが……。

安達 パンヤは粉になります。十年以上使えばね。

——まだ四年、デパートのバーゲンで買ったんですが……  
最悪の買い方ね。(笑)

●コレ下級品 (中かかランドウ)  
二本文合わせしてある。

●コレ上等品  
一枚もので圓い

## 手のかからない鉢植

### ① はじめに 知っておきましょう

近頃のように切花が高くなると、つい鉢植に手が出ます。うまくすれば来年も花が咲いてくれるのですから。ところが一週間もしないうちに枯れてしまう……この記事はこのような経験をくり返している人のためのものです。

自慢ではありませんが、我が家には何年ももっている鉢植など一鉢もありません。盆栽などと言うむずかしいものに手を出す気は全然ありません。私としては、大地に植える草花よりも鉢植の方が、余程むずかしいと思っております。なんなら地植では殆んど手のかからない、コスモスや鶏頭を、鉢植で作ってごらん下さい。

室内の鉢植は戸外の土の上と、全く違った環境であることを御認識下さい。鉢を抜いて見ましょう。鉢一杯に根がはびこっています。ちよつと水をやらなかつたら、枯れることがわかるでしょう。次は光です。たとえば花の咲きかけたパンジーの鉢を買って来て、日光が直接あたらない室内におくとする。結果はパンジーの

もやしです。次は湿度です。石油ストーブやクラーが働いている室内は、意外に空気が乾きます。豪華なシクラメンが急にしおれたりするのは湿度の所為が多いようです。最後に温度です。たとえば冬の室内は戸外より暖いものですが、それでも温室で育てられた花の中にはもた



ないものがあります。カトレアとか、冬咲きのペコニアとか、西洋シダの類です。

永もちさせる第一のコツは、買う時店で育て方をしつこく聞くことです。

永もちさせる場合、花物より観葉植物の方が簡単です。たとえば東洋蘭によく似た西洋蘭に

シンビジウムというのがあります。縁側に置いておくと余り枯れませんが、翌年花をつけるとは限りません。要するに枯れないでいるという事より、花をつけるという方が、条件の巾が狭いのです。観葉植物で気をつけねばならないのは、水苔に植えてあるやつです。この水苔は一度乾くと、ちよつと水をかけたぐらいでは水分を含まなくなり、鈍感な観葉植物でも枯れてしまいます。

花物をつくりたいのなら、夏より冬の方が簡単です。理由は家の中に陽が入るからです。

最後に植物により作り方が皆違うことを認識することです。従って最初に書いた買う時に話をしつこく聞く必要があるのです。

ここでおすすり品を一つ、プリムラポリアンサです。二、三鉢買ってきて、出来たらプランターに植えかえてやりましょう。水やりの手間が省けます。ガラス戸の側においておけば、時々花の咲いたあとのカラを取ってやる位で、咲き続けます。肥料はマグアンプとか、エードホールとか少くとも一月位はききめのあるものを園芸店で売っています。





# ウルビーノ紀行

神谷圭子

## タイムマシンのエルドラド

そもそののきっかけは一冊の岩波新書であった。下村寅太郎著「ルネッサンスの人間像」——ウルビーノの宮廷をめぐる——の副題のついた十五世紀のイタリアの小国の話を読んでいるうち、その領主の肖像画を見て、あっ、この人は、と思ったのは、フィレンツェのウフィツィ美術館で、赤い帽子に赤い服の左むきのこの肖像画を見たとき、フランキー堺そっくりだなと思ったので記憶にのこっていたからである。

ピエロテラウランチェスカ描くところのこのフランキー氏がいったい何者なのか、そのときまで私は知らなかった。

彼の名はフェデリゴ・モンテフェルトロ、アドリア海側から少し山へ入った、サンマリノの隣りあたりのウルビーノ公国の領主で、中世のイタリア独特の存在である傭兵隊長であった。

イタリアの歴史から読まないで理解できない制度なのだが、簡単にいうと他国にやとわれて戦い、報酬をもらう職業軍人である。

フェデリゴはこの本によると最大級にほめられている名將軍で、大へん強くてかせいだ報酬金で自分の領地ウルビーノに今も残る壮大な宮殿をたて、常時宮廷に五百人を養い、世界中から

書籍を収集し（その頃は手書きの写本だから非常に高価なのだ）最高級の美術品を購入し、この山の中の一小国をルネッサンス期のヨーロッパ文明の一項天といわれるほど繁栄させたのである。

一城成りて万骨枯るといのでなく、領民からはできるだけ税金をとらない主義で、領民はみな子供が両親を愛するように彼を愛したという。

久しぶり面白い読みものだった。ちょうどその頃はイタリアルネッサンス美術にこつて、ベネチア派、フィレンチエ派、シエナ派と、フィレンチエを中心に美術館や寺院を見て歩いてきたときだったので、会う人ごとにこの本の話をし、ウルビノにタイムマシンのエルドラドを感じるとふいふいふしたものである。

ウルビノへ行ってみよう。私の場合不言実行というのでなくいつも有言実行である。

行くよ、行くよといふらしいらしているうちひつこみがつかなくなつて出かけてしまうことになる。航空運賃の一ばん安い冬期をえらんだので定期的にやっている絵の展覧会をすませたあと十二月のはじめに飛び出すことになった。

ノエルや正月という休日の多い時期には馴れたパリに戻つた方が暮しやすいと考え、馴れないうちイタリアへの道を先にとることにする。

パリをたつとき知人が「余り期待するな、ウルビノはミシュラン（世界的権威のあるガイドブック）によると、二つ星だ（星の数で名所の等級をつけて紹介している）」と水をかけるようなことをいった。

日本をたつとき一応イタリア観光局に聞きに行ったが、ミラノとかベニスなど有名地とちが



って全く資料がなく、僅かにアドリア側のベザロから軌道車が走っていると判つただけ、アレツツオから一日一便バスがあるという人もいたがたしかでない。

## 私はウルビノへ行きたいのだ

私のくせでそれほど周到な用意はしない。方角はそれほどバカでない自信があるので、行けば何とかなるさとかんじんのウルビノの所在さえのっていないユーレイルパスの地図一枚にぎつて大ざっぱに方角をきめ、ベニス、フィレンチエ、ローマとまわつて、ローマ朝八時発のアンコナ行きの汽車にのり込んだ。

つれはY夫人、彼女の一人娘がかつて私の絵の生徒だつた関係で、絵も何度か買っていたにいておとくいきま。彼女は優雅にリスのコートなど身にまとつてゐるが、当方はギャバの合オーバーでとんと召使い格である。

たよりは六カ国会話集の中からひろつた「私は〇〇に行きたいのだ」（ヴォレイ・アンダーレ・ア・〇〇）という言葉、この〇〇をウルビノにするわけで、車掌をつかまえ、バカの一つ覚えの呪文をくりかえす。これで十分、アンコナまで行かず、アドリア海に出た地点のファルコナーラでのりかえ、フアノに出、フアノからウルビノ行きに乗れるということが判る。

ファルコナーラの駅のホームで次の汽車を待つ間、バチカンに巡礼に行つてきた一団のおばあさんにかこまれてしまった。

どこから来たか、どこへ行くのか、どこどこへ行つてきたのか、みんなにワアワアと攻められると、くたくたになるけれど、何とか話も

通じてくるから面白い。

私たちがこれからウルビノに行き、二晩泊るといったとたん、おばあさんの一人は猛然と、「あんな所へ二泊するのももったいない。サンマリノへ行くべきだ、サンマリノにはすばらしいお城があるよ」

このおばあさんはいかにも農家の人のような陽やけた骨太い人だったが大へんな能筆で、というのはいすこい唐草模様みたいな大きな字で私の手帖にサンマリノ、ラベンナのサンタポリナレ・インクラッセなどと書いてくれてここにはぜひ行けと強調する。

あまりツバキがとんでくるのでY夫人はへきえきしてしまつたそうだ。

やがて汽車がくると彼女は下るときおしえるから座っていると、ファノまで通路にしゃがんでつきそつてくれたのである。

ファノの待合室ではウルビノから働きに通つているといふ婦人に出会つた。何となく日本にもいそいな眼鏡をかけた地味な人だつた。ウルビノまで彼女がしよに行つてくれることになつた。

ローマをたつときから雨だつた。途中やんでいたのが、ウルビノさして山の中へ進むにつれてまた降り出した。

フェデリコ、モンテフェルトロを知っている

かと聞いてみる。知つていふという。私はその宮殿パラオドッカーレに行きたいのだが、というついでにいいホテルを知らないかと聞いてみた。

着いたら駅員に聞いてあげよう、ということ、こうしてウルビノ駅についたのが午後三時頃、どしゃぶりになつていた。出来たてのよう



な駅舎はまだ構内のカフェもやつとガラスが入つたばかりの感じで開店してはいない。

駅前からすぐバスに乗る。城壁にそつて山道を走る。「ここで下りて、アルベルゴ(宿屋)

イタリアーノに行きなさい」とおしえてくれた彼女はもつと奥に住んでゐるらしい、そのままのりつづけて行く。

私たちは雨のリパブリック広場に下り、すぐ前のカフェに入つて熱いカプチーノを立ち飲みしてやれやれと一息ついた。

ふつと徒然草のすこしのことに先達はあらまほしきことなれ——の片句が頭をよぎつた。

イタリアーノというホテルには広場からアーケードつづきで行けた。

古風なロビーの落ちついたホテルだつたが何とツインルーム食事なしで二泊で五千円たらず、日本人の感覚では安いとびつくりするがこの辺ではけっこう高いほうなのだろう。

パラオドッカーレはどこか、とフロントで聞いたらすぐ前だという。なるほど雨でけぶつた中に大きい塔がそびえている。

岩波新書には「新市街のホテルに泊つて、翌朝車で旧市のドッカーレに行つた」と記述してあるので、ここから更に乗りもので行くのだろうと思つていたのである。

私たちは手さぐり足さぐり、何と一發でフェデリコ氏の宮殿のまん前に到着してしまつたのだ。(続く)

●写真はピエロ・デラ・フランチェスカのウルビノ侯夫妻。

●岩波新書「ルネッサンスの人間像」下村寅太郎 二八〇円

# お能拝見 (その四)

恋の女

和田好子

## ■比翼連理の恋

唐朝の詩人白樂天が、玄宗皇帝と楊貴妃の關係を、美化してつくった「長恨歌」は、わが日本においても広く愛唱されたもので、源氏物語の冒頭「桐壺」は、これを下敷きにしています。

お能にも「楊貴妃」という一曲がありまして、長恨歌の後半、安祿山の乱に馬嵬が原で殺された楊貴妃を、玄宗皇帝が忘れかね、方士（仙術使い）を冥界につかわして、その魂を訪ねさせるといふ、幻想的な場面を見せてくれます。当時の人の目には、「唐めいたる装い」（源氏物語）の楊貴妃が、エキゾチックに映ったでしょうが、現代の感覚で見ればいかにも日本中世風の美人であり、古代的自由恋愛のふんい気が、濃厚に残っていたころの、女の姿をありありと感じさせるのです。

自由奔放な恋の伝統も、中世になりますと憂いのかげが

立ちそい、仏教の無常観が影響してきます。

お能の楊貴妃は、中世の教養ある女性で、昔ながらの直情で激しく人を愛しつつ、一方その知性によって永遠の時間のうち、万有流転の法則を覚り、恋に溺れようとして溺れ得ぬ、沈痛な心情を表わしているといえましょう。

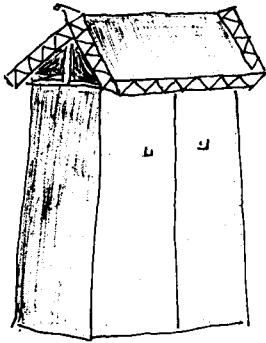
かなり上演時間の長いお能でして、ほぼ二時間を要したと思います。その面から初心の方にはあまりおすすめできないのですが、美々しい蠻物の一つの典型として、ご紹介しておきましょう。

こういう長いお能は、ことに上手な人でないと居ねむりが出かねませんが、私の思い出の中には観世華雪のはなやかな姿があります。長すぎるどころか、長いということすら感じさせない名演でした。

あれはたしか昭和二七年の初秋、場所は水道橋能楽堂、華雪は当時家元が幼少であった観世家を代表する名人で、まだ六十代であったと思います。

舞台には宮殿をあらわした作り物が出ます。まわりを

(図 1)



まつたく現代ともなれば、お能もひどいめにあうもんで作者の金春禅竹には想像もつきませぬ。その喧騒の中を、作り物から華雪の翳々たる美声流れ出たのである。へ昔は驢山の春の園に、ともに眺めし花の色。

包んでいる布を「引廻し（引きまわし）」といいまして、この中にシテがかくれているのです。（図1参照）

前場は玄宗皇帝の勅命をこうむった方士（ワキ）が、東海に浮かぶ仙島をたずねて、海を渡るところです。

彼は「山は虚無縹渺の間にあゝる、島をたずねあてて、住民に問い、楊貴妃の生まれかわりらしき貴婦人の住む、宮殿を教わります。

彼がそのあたりを徘徊して様子をうかがうところへ、宮殿の中から女の歎く声が洩れてくる。

ワキは松本謙三、これも上手な役者ですから、ひき込まれて見て、サテこれから楊貴妃が、作り物の中で謡い出すというところへ、まだ残暑があつたためでしょうか、開け放してあつた窓の外を、秋祭りのおみこしが、ワツシヨイ、ワツシヨイ、塩まいておくれと、勇ましく練つて通る。アア、まづい／＼と思ううち、ようやく通り過ぎてくれた、ヤレという間もなく今度はほど近き後楽園の野球の応援、ワッ、ワッ。

移れば変わるならいとて、今は逢来の秋の洞に、ひとり眺むる月影も、濡るる顔なる袂かな。あら恋しの古やな。

お能そのものの歎きの如きこの謡は、最初騒音に消え入りがちでありましたが、芸の力はたいしたものので、静まり返つた見所に秋の水が流れるようにしみ通り満ちわたり、いつしか窓外の騒ぎは耳に入らなくなつてしまつたのです。きき終つたワキが立ち上つて、

「へいかにこの宮のうちに申すべきことの候。唐の天子の勅の使、方士これまで参りたり。」

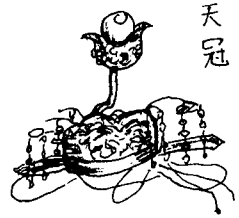
と呼びかければ、いよいよ引廻しが後見の手によつてはずされて、楊貴妃が、

シテへなに唐帝の使とは、何しにこれまで来れるぞとて、九華の帳をおしのけて、玉の簾をかかげつつ、立ち出たわけですが、その華雪の美しさ、はなやかさ。

面は小面（若い女の面）、緋の大口袴、壺折りに着た唐織は、赤地に紫と白の藤の花をいちめんにぬい取つたもの、頭には天冠（図2）をいただき、その瓔珞はきらきらと雪の如きかんばせに影を落して、白樂天が「雲鬢花顔」（長恨歌）と詩い、杜甫が「明眸皓齒今何処にか在る」と痛惜した絶世の美女のおもかけをまさにさながら目のあたりに見るよう。

能面や能衣裳は、それ自体芸術品ですが、芸術品を着たからといって美人になれるものじゃない。楊貴妃は何番か見ましたが、華雪ほどの美女はいませんでした。

ただ作り物の中に腰かけているだけで、それだけの表現力を持つのが芸の深さ、お能のよさといえましよう。



天冠

(図2)

楊貴妃は方士の伝える玄宗皇帝の愛の言葉  
を聞き、「天に在らば  
願わくは比翼の鳥、地  
に在らば願わくは連理  
の枝とならん」と誓い  
合った過ぎにし恋の思  
い出を語り、「未来永

永の流転、さらに生死の終もなき自然の法則、「老少不定(老いも若きもいつ死ぬかわからぬ)の人間界の苦しみをしずかに観じて、「会者定離(会うものは必ず別れる)ぞと聞くときは、逢うこそ別れなりけり」と、燃える心を見ずから覚めた目でみつめるのです。

最後に、方士が橋掛りへ去っていくのを見送るとき、華雪は大輪の花がくずれるようにひざまずいて

シテへさるにてもさるにても、  
君にはこの世逢い見んことも蓬が島つ鳥、浮世なれど

も恋しや昔……、

と、知と情の間を行きつもどりつ、苦しむ女の姿をみごとに演じて見せました。

## ■ 修羅の恋・地獄の恋

ご存知ない方のために一言しておきますが、お能役者はみな男性で、女性が職分(プロフェシヨナル)になること  
はないのです。もつとも師範(教師)になることはあるよ

うですが、私は短期間しかけい古をした経験もありませんし、そのへんのことはいくわしくありません。

明治のはじめ、大衆演劇として照葉狂言と称する女ばかりのお能があったというところで、泉鏡花の小説に出てきます。当時は維新で失業した能役者たちが食べていかれず、役所の小使になったり、職人になったり、ワキ方の役者が渡守りになったなんていうのは、気の毒のうちにも笑いを誘われますが、(ワキは能中で渡守を演ずることがある)たいへんみじめな暮しぶりです。中には照葉狂言の一座に転がり込んで、子どもにお能を教え、露命をつないだ人もあったということですよ。

照葉狂言はたとえばオペラを宝塚の少女歌劇でやるようなものと思われませんか、お能そのものではない。

お能には世阿弥以来女が演じたということはないのです。しかしアマチュアとしてなら話はべつで、女性が謡や舞を習うのはふつうのことですし、ちゃんとお能を演ずる人もたくさんあります。

つまりアマとプロとは嚴重な区別があつて、プロは五流(観世・宝生・金春・金剛・喜多の各流)の職分の組織に属しているものをいうのです。

このプロの組織が女を入れないから、女のプロがないということになりました。

これを差別とかどうか、女と男と別組織をつくるというのは日本の伝統ですし、長年男性の体力なり、声なりを基準にして練り上げられてきたお能は、男の芸術としていいのではないかと、私などは思います……。

演る者は男ばかりでありながら、お能は幽玄（ゆうげん）という、王朝以来の伝統に根ざした、一種複雑微妙な優美さを骨子とする舞踊楽劇で、優美というからには女の出番が多いのは当然、そこで鬘物という、女をシテとする曲が中心になります。

女を男が演ずるといっても、歌舞伎の女形と違って女のまねはしない。声も男のまま、立ち居振る舞いも型どおり動くだけで、しなをつくるでもなし、とくに体恰好のきやしやな人が、女になるというわけでもない。

大兵肥満の「美人」も出てくるのですが、それで美人に見えるなけりやあ、上手なシテとはいわれないのです。

もっとも、必ず面は掛けます。女の扮装はする。

私が見ていた当時、名人といわれた人は、いずれも美しい女になって見せましたが、中でも華雪は優美で上品な芸風で、立ちまさっていたように思います。

六平太の女は優美・上品というには少し粋がかっていまして、小柄な人ですからかわいらしい、しかし少々気が強くて、頭がよく意地も張りもありそうな、一種のタイプをよく表現しておりました。

この人の女では、「巴（ともえ）」と「松風（まつかぜ）」が忘れられません。

「巴」は女を主人公とする珍しい修羅物で、木曾義仲戦死の昔語りを、義仲の愛人巴御前の亡霊が、旅の僧の前で演じて見せるという曲です。

六平太の巴はまことに生き生きとしたリアルな表現、敗戦の愛人に自害をすすめ、自分も殉死しようとする情熱、

それを許さず、「汝は女なり忍ぶたよりもあるべし。これなる守小袖を木曾に届けよ」という義仲の真情に死ぬに死なれず、結局自分だけ生き残って故郷へと落ちていく哀感を、得意のふんい気づくりで臨場感万点に見せてくれました。

能の演出のつねですが、義仲は登場せず、ただ彼の無惨な死を示すものとして、白い小袖が細長くたたんで舞台上に置かれてあります。巴がひざまずいてその小袖をとり上げ、立ち帰りわが君を、見奉ればいたわしや。はや御自害候いて、この松が根に伏し給う。御枕のほどに御小袖、肌まの守まもりを置き給うを、巴泣く泣く賜わりて、死骸おんこに御暇ま申しつつ、行けども悲しや行きやらぬ、君の名残りをいかにせん。

と、小袖を面に抽しあててシオル（泣くしぐさ）場面では私もはらはらと涙がこぼれ落ち、舞台がすすむのをけんめに目をみはつて、至芸のすみずみまで、見落すまいとしたことを憶えています。

当時、戦に死んだものの魂は、修羅道という世界に落ちて、永遠に戦い続けねばならぬと信じられていました。

修羅物はこれらの痛ましい戦争の犠牲者たちが、冥界の戦場から仏教に救いをもとめて、「あら閻浮えんぶ（この世）恋しや」とさまよい出てくる話なのです。

お能を生んだ中世は、戦乱につぐ戦乱の時代で、世阿弥の父観阿弥は、ちょうど南北朝の内乱期を生きた人でした。修羅物には戦争から逃げることでできなかった人々の、救いのない実感が、こめられているといえましょう。

「巴」は、暗黒の修羅道にも生き生きとした女の恋があり、その清冽な愛が一筋の希望として、人間を救うこともあるという異例の修羅物なのです。

「巴」を修羅道の恋とすれば、「松風」は地獄の恋だと私は思うのですが、この世阿弥の名作には、あまりにも完璧な美が表現されていて、従来からその美のほうに鑑賞の対象になりすぎ、暗黒の面はツケタリというか、料理でいえば香辛料みたいに考えられていたようです。

私は、昭和二十八年、六平太の松風を見、背筋の寒くなるような地獄の印象を得ました。

もちろん彼の松風は美しい。波と月と松と美女と、そしてしようしようといふ能の美しさの極致でした。

しかし主人公の松風という若い女は、あきらかに地獄に落ちているのです。

彼女は須磨の浦の身分賤しい蜚少女（塩焼き、漁などを生業とする人々をあまといふ）でしたが、都の政争に敗れて流されてきた、皇孫在原行平に愛され、妹の村雨とともに彼に仕えるようになります。

「塩焼き衣色かえて、練の衣の空焚き」というわけで、配所の人とはいえ、貴族のものではなやかな生活をあじわう。三年ののち、行平は許されて都に帰ることとなり、松風に自分の狩衣を形見に与え、

立ち別れ いなばの山の峰に生ふる まつとし聞かば  
今帰り来ん

と、再会を期した歌を詠んで別れていきました。

それをたのみに待つ二人に、やがて届いたのは行平の死のしらせ、彼女らは歎きのあまり、相次いで世を去ります。「松風」の一曲は、二人の蜚少女の亡魂が、旅僧の夢に現われて、昔の恋を語るといふ内容なのですが、彼女らの魂はいまだに行平との恋の舞台である、須磨の浦をさまよっており、そこを出ることができないし、同じ死の世界に在りながら、行平とめぐり逢うこともできない。

ただひたすらに待ち続け、形見の狩衣を抱いて、  
たれば面影に立ちまさり、起臥わかで枕より、あとより恋の責め来れば、せん方涙に伏し沈む……  
ばかりなのです。

これを彼女らは「執心の罪」だとみずからさとりながらそこから離れることができない。

人生のある一時期に、あまりにも執著したために、死後その世界に閉じこめられ、永遠に出られなくなるわけです。

（三瀬川（三途の川）絶えぬ涙の浮き瀬……  
と、彼女らはそれが地獄であることも知っている。それでいて、

へあら嬉しやあの松かげに、行平のお立ちあるが、松風と召されさむろうぞ、いで参ろう。

などと、恋人の幻を繰り返し夢見ているばかりだ。

このような奇怪な恋愛観は、日本の中世独特のものではあるまいかと思いますが、深刻なりアリティを持っていると感ずるのは、私ばかりでしょうか。

恋とは、うたかたのように浮ぶ美しい幻ではないでしょうか。



地へこれはなつかし君ここに、須磨の浦わの松の行平、立ち帰り来ばわれも木かげにいざ立ちよりて、磯馴松のなつかしや。

と、松の作り物に狩衣の袖を打ちかけ、愛人に見たててそれを抱擁する場面で、自分より背が高いぐらいの松に、ひたとよりそつた六平太のかわいらしくなまめかしかったこと、地獄をこのように表現するお能というものの不思議な美に、ただぼう然とするばかりでした。

松風、村雨の姉妹が、ともに行平の愛人となるのは、古来からある一種の集団婚の形で、こういう場合、姉妹は一人格でライバル意識などないのです。

このような現代とはあまりにも異つた婚姻のありさまや中世の女の恋の種々相を、お能はありありと私たちに見せてくれます。

かつての日本の女は、恋にむかつてはなはだ積極的であり、情に感ずること深く、貞操さえも社会の強制ではなくて、みずからの愛の証明でありました。

また心とからだは離れることなく、愛することはともに寝ることを意味し、何の躊躇もありません。

これらは古代、女が自由であったところの性情ですが、中世においてもそれはまだ、色濃く保たれていたことが知られます。

(つづく)  
—カット・林—

### 情報コーナー

#### 「自分を変える本」

—さわやかな女へ—

この本を読んだ人は、自分の身辺にこの書を必要とする人を、二人や三人は必ず見つけ出すでしょう。そして自分が変わるとき、おもしろいほど局面が変わってきたのに驚いたのは他ならぬ訳者の齊藤千代さん自身だったということですよ。

著者 リン・ブルーム・カレン・コバリン・ジョアン・パールマン  
訳者 齊藤千代・河野貴代美  
発行所 BOC出版部  
電話 3541-3941  
定価 ¥13000

#### 食器洗い機

ゆずりますよ!

#### ■日立全自動食器洗い機

KF13000C形  
五ヶ月位使用したもの

#### 格安の

パリ旅行はいかが

- 11月中旬より10日間
- 198,000円
- 二人一室・毎朝食付

現地ではELLE誌の主催するクラブの各種講座を受講する特別コースもあります。

先着10名にて締切りますのでお早めに。

#### 「ご連絡は

編集部へ

狭い台所で動きがとれずオクラ入りになってます。差上げたいのですが、写植にしてから印刷費が倍加して四苦八苦の編集部へ、五千円位御寄附していただけたらうれしいです。

編集部 林

# エネルギー戦争は 始まっている

田中昭二

八月初旬、朝日新聞のひとつ欄に、エネルギーの欠乏が深刻化すれば、女性が職業人として働く余地はない。専業主婦として、家事労働に戻る見通しを持つべきではないかという投稿が掲載された。この投書には、専業主婦の身分が資本主義の高度成長とともに出現した事実への歴史的、社会的認識が皆無であり、問題のり下げが不十分ではあつたけれども、エネルギーの将来が私たちの女性の生活にも深刻な影響を及ぼすという把握の仕方は正しいものだったと思う。

石油危機以来、生産第一、消費万能の姿勢はたしかに変わった。

農業を見直そうという主張があり、節約第一という立場もある一方原子力に頼れという声もあがる。とんでもない、絶対反対との絶叫もきこえてくる。

成行きに押流されるだけでなく、私たちが本当に望む生活はどんなものかという問題を含めて、エネルギー問題の現状と展望を探ってみたい。

この欄への感想、反論を期待しています。

(編集部)

一九七三年の石油危機によって、日本、いや世界中がエネルギーの壁にぶつかつてしまいました。それ以来、経済は停滞し、まだ完全に立ち直つてはいないようです。日本でも、世界最強を誇る製鉄所の三分の一は遊んでゐる有様で、経済の高度成長などとは思ひもよらないことになつてしまいました。

現在の見通しでは、一九八五年には、エネルギー不足が世界的な規模ではつきりしてくると云われています。その時には、原油価格は暴騰し、国家単位でのエネルギー争奪戦がおこるでしょう。エネルギーのほとんどを輸入に頼る日本の将来が容易なものでないことは、すぐさま想像がつかます。

それではどうしたらよいかと云うことになりましたと、話は一転して経済から技術の分野に入つてきます。石油や天然ガスに代るもの——これを一刻も早く開発せねばなりません。

## エネルギー不足のもたらすもの

石油危機当時、日本のエネルギー節約が外国に比べて手ぬるいといろいろ非難の聲が屢々きかれました。

しかしこれは、日本のエネルギー事情を知らないために起つた非難です。日本では総エネルギー

ギーの実に70%が産業用で、家庭用などは、ただか10%にすぎません。アメリカでは逆に、個人用の自動車消費が圧倒的に大きく、産業用は30%にすぎないのです。従って節約の方法も国によって異なり、日本の家庭が少々節約をして、全体に与える影響はもの数ではありません。石油危機当時、節約法を新聞記者にきかれて返答に窮した中曽根通産相が、「冷蔵庫の開閉を早くしたり、テレビを消すときはソケットから抜くように」などと答えたのは、今から思えば全くいじましい話でした。

日本のエネルギー問題の深刻さは、少しでもエネルギー不足になれば、日本が営々として築き上げた産業の息の根がとまってしまうことにあります。産業の崩壊は直ちに国民生活の崩壊につながるでしょう。何しろ日本の輸入の四分の三はエネルギー、日本人はエネルギー輸入のために働いているようなものです。これほど深刻な問題を目前にしながら、何故解決へのアプローチが盛り上らないかというところ、エネルギーが票にならないからなのです。福祉やロッキードは票になっても、エネルギーは票になりません。

いま最も必要なことは、新しい省エネルギー方式（エネルギー節約の方式）や、新エネルギー開発に関する国民的合意をとりつけることで

しよう。巨額の費用を必要とするこれらのプランの実現は、国家予算の他の部分を圧迫する可能性が十分にあり、来るべきエネルギー危機に備えて、子孫のために、現在どれほどの犠牲を払わねばならないかを、よくよく検討しておくことが必要と思われまます。そしてそれは、技術の問題であるとともに、すぐれて政治の問題でもあります。

## エネルギー節約とその開発

原油を中心とするエネルギー問題に対しては二通りの取組みかたがあります。一つは従来のエネルギーの使い方を工夫して節約すること、第二は石油に代るエネルギー源を開発すること。しかしこれらはいずれも容易なことではありません。

七十三年の石油危機を切り抜けるために、産業界では徹底した省力化がはかられてきました。現在、鉄鋼・家電・自動車など、国際競争力のある企業はすべて、この省力化のたまものと云えます。反対に中小企業を多く抱える繊維業界は省力化に遅れ、後進国の追い上げをうけて苦戦しています。そうして、すべての産業にとつて共通な省エネルギー問題が、いよいよ目前に迫っています。

さて、第一のエネルギー節約の方法ですが、これには二通りの方法があります。一つは、エネルギーを多く消費する鉄鋼、化学などいわゆる重化学工業はほどほどにし、同じエネルギーを消費してもより付加価値の高い知的集約産業を振興し、それで国民が食べて行けるようにすることです。知的集約産業の中心は、何といつてもコンピューターで、日本がIBMという巨大産業に抵抗し、国産死守の姿勢を貫くのも、このために他なりません。これは、「産業構造の転換」と云われ、以前からも唱えられ、現在も進行中ですが、何しろ尠大な重化学工業を抱え、現在それで食べているのですから、容易なことではなく、時間のかかる問題です。

第二の方法は、現在の生産規模を維持しながら、産業で消費しているエネルギーをへらすことです。しかしこれも中々むづかしい。大規模化した製造設備を作りかえなくてはならないからです。しかし実行を急がないと、石油や電力がいつきに高価になった場合に、急激に競争力を失って産業が崩壊しかねません。現に、尠大な電力を使うアルミ産業は、現在の電気代ですら競争力を失い、日本の産業の第一線から姿を消しつつあります。

このように、産業の省エネルギー化は、家庭の省エネルギーと違って大変むづかしいことが

わかります。女性にとつては、産業より家庭が大事と云われるかもしれませんが、産業が弱れば、家庭の収入に直接ひびいてくることを否定できる人はいないと思います。

従つて、石油に代わるエネルギー源を一刻も早く開発することが国民の願ひになるのではないのでしょうか。

そのホープとして期待されつづけてきたのが原子力でした。

原子力は、有名な「むつ」問題をはじめとして、絶えず批判の対象となり、悪者扱いにされながら、地味に建設が進められ、気がついてみると原子力の利用度ではアメリカについて日本が世界第二位になっている事実を知っている人はそう多くはないと思います。最近では、より効率的に（現在の原子炉の数十倍！）原子燃料を使える高速増殖炉の開発が行なわれており、最近日本でもやっと第一号の試験炉が動き出しました。

「常陽」と呼ばれるこの試験炉が試運転に入つたとき、新聞はいっせいに拍手を送つたものです。「むつ」の時の、ヒステリックとさえ思われる報道を考えると、世の中の変化の速さに感慨無量なものがありません。

この増殖炉の燃料にはプルトニウムが必要で、これが核再処理問題として日米交渉の大問題と

なつたことは、ご承知の通りです。

しかし、廃棄物の処理の問題をも含めて、高速増殖炉には非常に難しい点が多く、実用化は二十一世紀になりそうだという見方もある上、いずれもウランを必要とする難点があります。

周知のように、ウランは日本では殆ど産出せず、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどが主産地であるために、一度、これらの外国がウランの禁輸をすれば日本がまたまた存立の危機に直面することは避けられません。

### 孤立無援の日本の将来

私は、遠からず日本は経済的に孤立無援の形になると予想しています。なぜなら、強大な産業力に加え、技術開発の面においても、日本がアメリカと肩を並べようになつたからです。

政府が支援し、日本の電子メーカーが昨年発足させた「超LSI計画」は、アメリカに激烈な反応をひきおこし、「日本はアメリカのテクノロジーの最後のトリデの攻略にとりかかった」と書いた学界誌が現われたほどでした。貿易問題以前の技術開発の段階でありながら、恐怖心を露骨に示す表現が関係誌にいっせいに載つたのには驚かされました。

しかし一億人が食べていくために、技術開発

をやめるわけにはいきません。こうした情勢の中で、最終製品としての日本製コンピュータが海を渡り、テクノロジの最後の牙城IBMに迫つた時、アメリカ人全体がどんな反応を示すかを考えると、関係者の一人として背筋の寒くなるような思いがします。

このような状況では、日本の最大の弱点であるエネルギー問題における独立を一刻も早く達成しなければなりません。

ここでわれわれの最後の希望として「核融合炉」の開発が浮かび上がってきます。

これまでは、前述の高速増殖炉でさえ「夢の原子炉」と呼ばれ、核融合炉に到つては、夢のまた夢の話とされてきました。この夢のまた夢の話に、なぜ挑戦しなければならないのでしょうか。

核融合炉の原理は簡単な話です。これまでの原子炉は、ウランの原子核が分裂する時発生するエネルギーを利用してきましたが、今度は逆に重水素（水素の一種）の原子核を二つ融合させてヘリウムの原子核を作る時に発生するエネルギーを利用する方法なのです。

太陽のエネルギーはこの核融合であることはよく知られており、人間が実際に行った実験としては不幸なことですが水爆があります。

しかし原理は簡単でも、これを地上で利用す

るのは容易なことではありません。現在最も可能性があるのはわれているのはトカマク型といわれ、ソ連で発明された方式です。

これはドーナツ状の容器の中に、まず水素ガスを入れ、これを放電させると、水素原子核と電子がバラバラになり、いわゆるプラズマになる。次いで大きな磁石を使って原子核の軌道をまげ、ドーナツの中心部にプラズマを圧縮させるのですが、この時のプラズマの温度が一億度を超すと、核融合がおこるのです。

プラズマの温度が高いということは、動きまわっている原子核の速度が速いことで、二つの核が大きな速度で衝突することを意味しています。核融合ではなるべく多くの原子核をなるべく狭い部分に閉じこめ、かつなるべく長い時間反応させることが絶対に必要なのです。

現在、温度は最高で一千万度、時間も千分の一秒という短さで、実用的にみてまだまだ問題になりません。しかも、もし核融合がおこったとしても、そのエネルギーをどのようにして安全に取り出せるのか、まだほとんど手がつけられていないのが現状です。

どうしてそんな厄介な技術を開発しなければならぬのかというと、それは、原料が重水素で、海水中に無限に存在し、もしこれに成功すれば、人類はほとんど永久にエネルギー問題か

ら解放される筈だからです。原子力利用につきまとう廃棄物の危険もありません。日本の将来にとつて、これほど大きな保証はないと云えましょう。

## 国民的意志が決め手に

現在、世界各国が核融合の開発をはじめていますが、ここでもどうやら、日本とアメリカとが最終競争に残りそうな状況です。日本では、東海村の原子力研究所で「JT-60」と呼ぶ実験装置の設計をおわって、部分的に試作が始められており、うまく行けば、将来の見通しが開けると期待されています。

現地に行くと、その規模の巨大さには驚かされます。とにかく電磁石に大電流を流す電源をおさめる建物だけで一万三千坪、全体の経費が千五百億円かかると云われています。それですら、胎児で云えば、男女の区別もつかない状態で、その後、実験炉、実証炉、実用炉の各段階を経てはじめて、産声をあげるようになるのです。

この各段階毎に十五年間くらいかかり、結局完成はよくいつて来世紀半ばと推定されています。また経費も各段階ごとになぎ登りで、実験炉の段階で一兆円は軽く越すと思われ、実用

化までにはさらにどのくらいかかるか見当もつきません。

問題は、このように絶対確実に成功するかどうかわからないことに巨額の投資をすることに對して、国民の合意を得られるかどうかにかかっています。けれどもごく近い将来、エネルギー危機の実態が次第に明らかになるにつれ、多くの「イフ」を含みながら、核融合炉完成に国民の将来をかけざるを得なくなり、国家的事業として出発することになるのではないかと私は推測しています。

たとえ巨額の費用がかかろうとも、三百万の生命と、莫大な国民の資産を灰燼に帰した太平洋戦争に比べれば、どれほどのものであるでしょうか。

現在では、核融合炉は奇蹟に近い存在かも知れません。しかし基礎科学には奇蹟が望めなくとも、工学の分野には奇蹟が起り得ます。

ライト兄弟が飛行機をはじめて飛ばしたとき、わずか六十年後にジャンボ・ジェットが空を飛び交うことを誰が想像したでしょう。

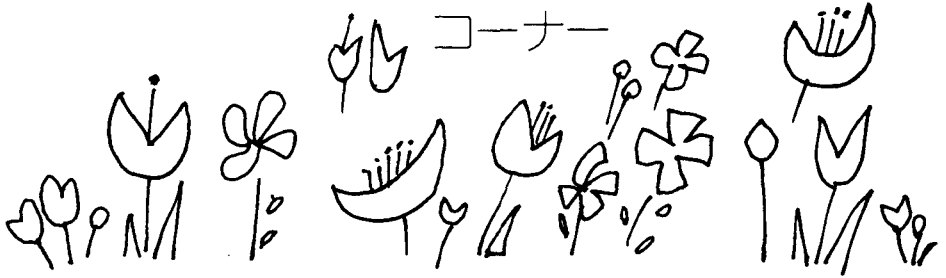
奇蹟は人間の英知の結果により始めて可能となるのです。

核融合炉を完成し、人類史上不滅の金字塔を打ち立てるのは、次の世代、あるいはその次の世代の日本人かも知れないのです。

# おしゃべり

# エンピツとハガキ それだけで書ける

コーナー



「考える雑誌」に  
めぐりあえて

京都市 新栄 奈良江

毎日暑い日が続きます。京都も祇園祭が近づき、京都らしい活気がみなぎってきたようです。祇園祭は暑くなくはお祭らしくありません。暑いのに皆さんご苦労さまです。

「わいふ」を申し込んで本当に良かったとつくづく思っています。始めは気らくに書いて投稿出来るというのに惹かれて自分の事は棚の上に向けて早速と申し込んだのですが、書きたいという気持は一杯なのに、皆さんの簡素な中にもちやんと要点をつかまえていられる文章を読まして頂き、私は何時も二ノ足を踏んでいます。でも何時までもこのままでは前へ進みません。年老いて後退したくない、書く事は考える事、考える事は頭の運動と思っていますが、人より一回転も二回転もにぶい私は「テーマ」即考えが浮びません。次号のその「テーマ」に関する文章を読んで「ああそうだなあ」とか「あの人はこうだが私は違うわ」等思い「テーマ」即考えや、文章の出来る人が羨しいです。まあテンポはおいけどその時々々の感想や雑文をノートしていい

るのが楽しいです。そのうち何んとかまとまるでしょう。私のような一歩おくられている者も、よろしく引張って行って下さい。何時も身近なすぐ間に合ういろいろな問題を取り上げて下さい。本本当に参考に成り嬉しく思っています。それと固定した考え方の文章だけでなくいろいろな角度の投稿を取り上げておられ、やっと私の見付けた「考える雑誌」と思っています。

選んだつもりが

原市 荻原 禎子

一番読みたかった座談会、やっと読みました。そして、今まで云いたかったこと全部ほとんど（というのはまだ云いつきていないと思うから）云い出されていて、私もこんな席にいて、だまっていてもいいから聞かせてもらいたかったと思っています。最後の、親になることの最大の価値は、自分がいかに感かかな人間であるか悟ることだ、の言葉には、全くもって同感してしまふのです。やつぱりそうなのか//そうやつたんか//そうやろなあ//って。

奈良の明日香の片田舎で、さつぱり流行らない喫茶店を経営しています。（主人と二人で）

二人でというのは、女の子をやとうだけの経費が出ないからので、しけたおぼはんが居ては、流行らないとは思ふもの致しかたなしとあきらめたり、いやいや他になにか、いい商売はないかと物色したり、やはり先だつものは金!!なんて、くよくよイライラ思ううちに、とうとうなんで結婚してしまつたんやろ、主体的に選んだ道のつもりが決してそうとは云い切れないんだと気がついていきます。

## 父の日に想う

新座市 松本 静子

昭和十五年十一月五日この世とさらば、丁度其の時、私は台湾高雄にて生活中。大勢の子供等にかこまれて、みんなにやさしい父だつた。みんなが尊敬していた父だつた。理想の父故、思い出が沢山。父の日と命日には特に感謝の気持ちで一杯だ。が、みんなあとのまつり。もう一度会いたい父。親孝行出来なかつたことをくやむ。父親ゆずりの私の性格と母は云ふ。一度でよいから会いたい。ゆつくりお話して見たい。久しく会っていません。三十七年間も。父亡き後のもろもろのなやみを聞いてほしいと

胸いたむ。長い教職中風邪をこじらせ四十八才にて世界。

## いつもの散歩

仙台市 岩田 真砂子

二才になる上の娘を連れて、いつもの散歩コースを、買い物かごに歩いてきた。そしていつもの様に保育園の前を通りかかり、鉄格子につかまつて二人で見ていた。

中では、保母さんと、沢山の園児たちが、砂遊びに、鬼ごっこ、かけっこ、元気にはねまわっている。七、八人の子供たちが、私たちに気がついたようだ。驚くべきことに、その目は私に注がれていた。そのまぶしそうで、嬉しそうなお目。私はその時、その子の母親というものに對する見方を確認したような気がした。普段、母親と離れているから、よけいに、母親の良さ、暖かさが、分かるのではないだろうか。毎日そばに居る私の娘が、あんな目をして私を見たことがあつただろうか。それから数人が、入れかわり立ちかわり、私の前に立ち、黙つてややモジモジしながら手を出したり、気を引こうとしたり、娘にはなく私にだ。相手をして

あげると安心したように戻っていった。

## 転勤を前に

熊本市 まつはし ともこ

「わいふ」一四七号をお届け下さり、ありがとうございました。一気に読みました。

私の拙文「友への手紙」も載せて下さり、うれしいやら、恥ずかしいやら。ただ今、午前一時過ぎ。段ボールの山積みを書いています。私事ながら、此度九州は熊本へ転勤となり、五日後の二十八日に、熊本へ引越すことになりました。主人は既に赴任しており、赤ん坊をはじめ三児をかかえて、連日、午前一時頃まで荷作りに追われ、まさに引越し地獄のまつただ中というところ。急な転勤を聞かされたのが、実家の青森でねぶた祭見物に浮かれていた時でしたので、ヒエーツ、日本列島北から南へ、この夏休みの間に移動するわけかとビックリ仰天尻もちをつく思いでした。

子供たち三人をひきつれて、青森から帰京し、その日から荷作りやら、諸手続きに追われている次第ですが、帰京して以来、雨、雨、雨のニツクキ雨降り続きで、洗濯した衣類を荷作りし

ようにも、その衣類が乾かなかつたり、せつかく手に入れた段ボールをぬらしたりで、イライラカッカツとするこの多い、ウルトラ多忙の毎日です。しかしどれほど多忙でも、長年の身についた習慣で、(チョットきぎですが)一日に二時間ほどは机に向かって、手紙を書いたり、文を書いたりせずにはいられず、この引越し地獄の中で、最近再読した「ジャン・クリストフ」について、感想を書いてみました。あと五日に迫った引越し、赤ん坊がまとわりついて、仕事がかどらぬまま、ついつい上の子たちをイライラしてどなりつけては、反省し、ロマン罗兰の鋭い言葉にハツとするのです。

今週の日曜日からは、もう九州の土を踏んでいます。青森育ちの私が始めて見る九州はどんな所か、不安もあるけれど、期待も大きく、胸ふくらませています。

### 働きたくとも

坂戸市 高橋 裕見子

一四二号の「おしゃべり」に投稿しましたように、きちんと働きたいと思いつながら、きちんと働かせてくれる職場がみつからず、(地域的

なこともあるかもしれませんが)ただ今、一才九ヶ月の息子を横において、保母の資格をとるために勉強中です。八月に資格試験があるため「七月は何か書こう」と思いながら、とうとう書けずに三十一日になってしまいました。情けない気持ちです。

八月二十七日から二十九日まで「アジアのわたちの会」の合宿があります。どこかへ出かける時、母親だから、子連れで堂々行きたいといつも思うのですが、子どもがまきおすあらゆる迷惑を思うと、悲しいことに、とても堂々とはいきません。

九月は書きたいと思います。

### こっそり署名なら

柏市 S・I

結婚改姓については以前より、そういう反対運動のあることを知り、ひそかに賛同しておりましたが、現実問題として、今の自分の結婚生活や、夫の家族に別に不満はなく、かつ結婚改姓には反対であるということ周囲に納得させるのは、非常に難しいのです。コソソリ署名する方法があれば参加したいと思っております。

### 編集だより

▼早くもジャーナリズムの手垢にまみれた感のある「ニューファミリー」にあえて取組んでみました。注目に価する変化が、若い世代の中に確実に現れてきていると確信したからです。この問題に対する和光大の岸田秀教授の分析は、ニューファミリーの解釈に新しい光を投げかけるものではないでしょうか。

▼149号のテーマは「産婦人科医にもの申す」にきまりました。医者と患者は強者と弱者、その中でもとくに、妊娠、出産をめぐるものもろに、女性側からの声がまったく聞かれなかったのが実情だと思います。この号は投稿を中心にとめたと思いますので、体験の中から切実なご感想をお寄せ下さい。千二百字まで。締切は十一月中旬です。

▼情報コーナー、売りたいもの、譲りたいものなどのお申し出が意外と少ないのですが、どんなものでも遠慮なくお申し出下さい。

わいふ 148号一九七七年九月二十五日発行  
編集発行・わいふ編集部〒162東京都新宿区  
加賀町二ノ三田中方 印刷(株)イワタ印刷  
定価350円・年間六冊分1500円・送料720円  
振替注文東京一〇四三〇(ハ)260・五五〇〇



# 自分を変える本

— さわやかな女へ —

リン・フルームほか著  
香藤千代ほか訳  
1300円

女流心理学者の手に成る自己解放・改革の実践書

人の権利を侵さずに自分の主張を  
き、自分が不愉快にならずにいられた  
法一つ利主張的な女であるの  
はどうかという。豊富な事例を  
挙げて説明している。3人の著者は米国の  
女流心理学者だが、日本にそのまま適  
用できる例が多く、読んで自分の生  
き方を考えさせられる。(中日新聞書評から)

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 BOC出版部  
TEL (354)3941(代) 振替 東京3-39331

# 新版 世界女性史

玉城 肇著 1500円

樋口恵子さん(評論家)の推薦文からこの本には、世  
界の女の歴史、女に対する歴史上の様々な学説が適切に紹介  
されて、現在、私たちがどんな問題を抱え、どこに位置して  
いるかを知る手がかりになるでしょう。……女性の学習グル  
ープのテキストとしても大へん適当な本だと思えます。

東京都千代田区神田神保町3-1-10

西田書店

電・二六一―四五〇九 振・東京六一一九六五三五

# 玉川高島屋S.C.に JAXの特選中古車 シヨールーム誕生!



玉川高島屋S.C.

JAXカーコーナー

☎03-709-2222(大代表)

☎03-709-7739(直通)



既刊号 特集

- 138 天皇とわたしたち
- 139 日本の夫
- 140 家事を洗い直す
- 141 親のきたみち  
子どもの行く道
- 142 日本のおばあさん
- 143 主婦とウーマンリブ
- 144 なぜ結婚するのか
- 145 こどもを預けるとき
- 146 母性とは何か
- 147 女と政治

定価 ￥350

予約購読料 ￥250